

命シ若クハ委シテト言ヘリ其命スルト委スルトハ實際ニ如何ナ

區別アリヤ

○番二番小森澤 命スルト委スルトノ區別ハ第二十五條ニ掲クル如

ク各長官ハ所管内及ヒ所屬内ノ官吏ニ命スルヲ得ルモ其所管外及ヒ所屬外ノ官吏ニハ然スル能ハス故ニ委シテト爲シタルナリ

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第二十四條乃至第二十九條ヲ可決ト認

ム時已ニ正午ヲ過ク午餐ノ爲メニ散會シ午後ニ開會セン

午後零時十分散會

午後第一時開場

○議長 午前ノ續會ヲ開ク

○二十四番大鳥圭介 本案ハ條項數多ナルノミナラス各位モ別ニ異議ア

ルヲ見サレハ爾後ハ朗讀ヲ省キ幾條ヨリ幾條マテヲ議題ト爲シ速ニ議了センコトヲ建議ス

○議長 各位共ニ二十四番ノ建議ニ異議ナケレハ朗讀ヲ省キ第三十

條第三十一條ヲ議題ト爲ス此兩條ハ前會ニ某議官ノ質問ヲ發セシ者ナレハナリ

第三十條 軍人其職務ヲ行フニ因リ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルコ

トヲ知リタル時ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理又ハ被告人ノ所屬長ニ告發ス可シ

第三十一條 軍人ノ重罪輕罪現行犯アル時ハ何人ヲ論セス直ニ之ヲ逮捕スルコトヲ得



其犯罪人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ被告人ノ所屬長又ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理司法警察官憲兵若クハ巡查ニ交付ス可シ

○議長 發議ナキヲ以テ兩條ヲ可決ト認メ第三十二條ヨリ第五十六條マテ議題ト爲ス

第三十二條 司法警察官憲兵及ヒ巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル時ハ速ニ之ヲ被告人ノ所屬長又ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理ニ引致ス可シ

第三十三條 司法警察官軍人ニ係ル告訴發ヲ受ケタル時ハ速ニ被告人ノ所屬長又ハ東京軍法會議若クハ鎮守府軍法會議ノ主理ニ交付ス可シ

第三十四條 告訴人發人ハ願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更セシ

コトヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 第二十五條ニ記載シタル諸官海軍檢察ノ處分ヲ爲シタル時ハ調書ヲ作り證據文書ヲ添テ各其所管長官若クハ所屬長又ハ委托ヲ受ケタル各廳長ニ具申ス可シ

## 第五章 審問

第三十六條 鎮守府長官司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ速ニ左ノ處分ヲ爲ス可シ

被告人上長官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申ス可シ

被告人士官以下及ヒ同等以下ノ軍人若クハ其他ノ諸人ナル時ハ



其事件ノ難易ニ從ヒ鎮守府長官ハ判士ニ司令官ハ麾下ノ將校ニ  
審問委員ヲ命シテ審問ヲ爲サシメ若クハ直ニ判決ニ付ス可シ

第三十七條 各廳長被告事件ノ具申ヲ受ケ若クハ自ラ檢察ノ處分  
ヲ爲シタル時ハ速ニ其事件ヲ東京軍法會議ノ主理ニ移シ主理ハ  
之ヲ判士長ニ交付ス可シ

第三十八條 東京軍法會議ノ判士長主理ヨリ被告事件ノ交付ヲ受  
ケタル時ハ速ニ左ノ處分ヲ爲ス可シ  
被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具  
申ス可シ

被告人下士以下及ヒ同等以下ノ軍人若クハ其他ノ諸人ナル時ハ  
其事件ノ難易ニ從ヒ判士ニ審問委員ヲ命シテ審問ヲ爲サシメ若

クハ直ニ判決ニ付ス可シ

第三十九條 海軍卿被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ其事件ノ難易  
ニ從ヒ審問若クハ判決ニ付スルノ命令ヲ下ス可シ其命令ヲ受ケ  
タル鎮守府長官司令官若クハ判士長ハ審問委員ヲ命シテ審問ヲ  
爲サシメ又ハ直ニ判決ニ付ス可シ

第四十條 審問委員審問ヲ爲ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス其被告人出  
廷シタル時ハ即日之ヲ訊問ス可シ

第四十一條 審問委員ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル  
時ハ其地ノ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十二條 審問委員ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セ  
サル時ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得



第四十三條 審問委員ハ重罪被告人ニ對シ又ハ其他ノ被告人罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走スルノ恐アル時若クハ未遂罪脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂クルノ恐アル時ハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第四十四條 審問委員ハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ委シテ之ヲ執行スルコトヲ得

第四十五條 審問委員ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十六條 審問委員ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ具申ス可シ

鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ハ各控訴裁判所ノ檢事長ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ

司令官外國ニ在テハ領事若クハ公使ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ

第四十七條 審問委員ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後若シ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ非ス又其收禁ヲ要セサル者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ解ク可シ

第四十八條 審問委員ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ爲スコトヲ得其處分ヲ爲ス時ハ錄事之ニ會同シ調書ヲ作ル可シ



其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十九條 審問委員ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社ニ事由ヲ通知シテ被告人ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受開披スルコトヲ得

其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ第四十八條第二項ノ例ニ依ル

第五十條 審問委員ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナル時ハ其所在ニ就テ陳述ヲ聽ク可シ證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得

證人遠隔ノ地ニ住スル時ハ第四十八條第二項ノ例ニ依ル

第五十一條 審問委員ハ被告人及ヒ證人ノ訊問ヲ爲ス時ハ錄事之

ニ會同シ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人若クハ證人ニ讀示セシメ其陳述シタル所ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ

被告人及ヒ證人ハ其陳述ヲ變更増減センコトヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 審問委員ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スル時ハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ

鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記シ若シ結果ヲ得サル時ハ其推測スル所ヲ記シ署名捺印ス可シ



第五十三條 審問委員ハ證人鑑定人通事正當ノ事故ヲ證明セスシテ其呼出ニ應セサル時ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ但其證人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

證人陳述ヲ肯セサル時ハ普通刑法第八十條ニ依リ又鑑定人鑑定ヲ肯セサル時ハ普通刑法第七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ  
第五十四條 證人鑑定人通事ニ罰金ヲ科スル時ハ普通刑法第二十七條ニ從フ但罰金ヲ禁錮ニ換フル時モ亦審問委員之ヲ命ス

第五十五條 審問委員ハ審問ニ於テ餘罪ヲ覺擧シタル時ハ直ニ本件ト共ニ審問ス可シ

共犯ヲ覺擧シタル時ハ之ヲ鎮守府長官司司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ具申ス可シ

第五十六條 審問委員ハ審問終リタル時ハ其報告書ヲ作り意見書ヲ添へ訴訟文書ト共ニ之ヲ鎮守府長官司司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ具申ス可シ

○八番井田讓 本案第四十九條ハ陸軍治罪法第四十七條ト同文ナレトモ普通治罪法ニハ書類電報又ハ物件ヲ受取リテ開披スルトキハ其受取證書ヲ交付シ及ヒ書類物件ノ不用ニ屬スル時ハ之ヲ還付スル等ノ順叙ヲ明掲セリ然ルニ本案ニ之ヲ明掲セサルハ普通治罪法ト異ナル理由アリテ然ル歟

○外三番高島眉山 普通治罪法ニ明掲シテ本案ニ明掲セサレハ或ハ疑ヲ懷ク無キヲ保セサレトモ本案モ亦其普通治罪法ノ如ク受取證書ヲ交付ス可キハ之ヲ交付シ不用書類ノ還付ス可キハ之ヲ還付スルヤ



當然ナレハ復タ之ヲ明掲スルヲ要セスト認メシナリ

○八番井田 第五十條ニ審問委員ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

ト言ヘリ通事トハ何等ノ者ヲ指ス歟

○外三番 高島 通事トハ普通治罪法ニモ記載セル如ク獨リ外國人ノ

通事ノミナラス本邦人ノ聾者啞者等ニモ併用スルナリ

○八番井田 第四十六條ノ末項ニ「司令官外國ニ在テハ領事若クハ公

使ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ」ト言ベリ是レ領事公使ヲシテ

犯人ヲ逮捕セシムル者ノ如シ果シテ然ルヤ

○外三番 高島 外國ニ在テハ犯人逮捕ノコトハ他ニ依頼スルヲ得サ

レハ我國派駐ノ領事公使ニ逮捕ヲ求ムル順叙ヲ示セシナリ領事公

使ヲシテ直ニ犯人ヲ逮捕セシムルヲ云フニ非ス

○八番井田 領事公使ニ犯人ノ逮捕ヲ求ムルノ順叙ヲ示ス者ナリト

セハ本條ノ末項ハ修正セサル可ラス因テ之ヲ修正シテ人相書ヲ送  
リ其逮捕ヲ求ムルノ手續ヲ爲スコシト爲サン

○十四番田邊 本官ハ本條ノ「若クハ公使」ノ五字ヲモ削除セントス

時機ヲ待テ之カ修正說ヲ提出セン

○議長 十四番ハ八番ノ說ヲ賛成スルニ非サル歟

○十四番田邊 然リ

○議長 八番ニ問フ現ニ議題ニ在ル他ノ各條ニハ異議ナキ歟

○八番井田 他ノ條款ニ對シテハ異議ヲ蓄ヘス

○議長 八番ノ第四十六條末項ヲ修正セントスル動議ハ賛成者ナキ  
ヲ以テ消滅ス



○十四番田邊太一 豫陳セル如ク第四十六條第三項ノ「若クハ公使」ノ五

字ヲ削除シ其餘ハ八番ノ修正説ノ如クセン夫レ本條第二項ノ如キ

○檢事長ハ逮捕ノ權ヲ有スレトモ公使ノ職任ハ專ラ彼我兩國間ノ交

際ニ存シ決シテ逮捕等ノコトニ干涉ス可キニ非ス我人民ノ身上ニ

○關スルコトハ領事ノ專掌スル所ナレハ之ニ委付シテ可ナリ故ニ前

○述ノ如ク修正セサレハ事實其當ヲ失セン

○八番井田讓 十四番ノ動議ヲ賛成ス

○議長 十四番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外水本成美 十四番ノ檢事長ハ逮捕ノ職權ヲ有スレトモ公使ハ然

ラスト説クハ素ヨリ其言ノ如シ然レトモ我領事ヲ置カサル國地ニ

於テハ之ヲ公使ニ囑託セサルヲ得ス故ニ公使ノ文字ヲ削ルハ甚タ

○不可ナリ且手續ノ文字ヲ挿入セント云フモ此逮捕ノコトハ我司令

○官ヨリ我公使領事ニ逮捕ヲ求ムルニ止マレハ其手續ハ自ラ「逮捕

ヲ求ム可シ」ノ文字中ニ包含ス況ヤ本案ノ如キ法律ニハ自ラ其行

○文ニ成例アルヲヤ因テ十四番ノ修正ハ決シテ其當ヲ得タリト爲ス

可ラス

○十四番田邊太一 番外一番ハ本官ノ動議ニ對シ駁撃ヲ與ヘタリ其言稍

○ヤ道理ナキニ非サレトモ領事ト公使ト其職掌ノ區別判然タルハ喋

○辨ヲ俟タス且本官ノ聞知スル所ニ依レハ領事ヲ置サル國地ニ於テ

○ハ公使ヲシテ領事ノ職任ヲ兼子シムト故ニ公使ノ文字ヲ削ルモ敢

○テ支障ヲ見ス況ヤ之ヲ存セハ或ハ公使モ亦逮捕ノ權ヲ有スルヤノ

○疑ヲ來ス可キヲヤ手續ノ文字ノ法文ニ用ヒテ妥貼ナラストセハ宜



ク他ノ文字ヲ用フルモ可ナレトモ若シ本項ノ如ク前項ト同文ナラシムルトキハ其逮捕ノ囑託ヲ受ル領事等ハ甚タ困惑セントス何トナレハ支那朝鮮等ヲ除キ治外法權ヲ行フ他ノ締盟國ニ在テハ假令我犯人タリトモ直ニ逮捕スルヲ得ス之ヲ逮捕セントスルニハ其駐在セル國地ノ地方官ニ依頼セサル可ラサレハナリ要スルニ我領事ハ司令官ヨリ逮捕ヲ求ムル文書ニ捺印スルニ過キサル可シ因テ八番ノ發議ノ如キ手續ノ文字ヲ插入スルヲ可トス

○議長 十四番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ  
起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ十四番ノ修正說ハ消滅ス

○二十八番 笑作 麟祥 本官ハ初ヨリ公使ノ文字ヲ削除スルニハ同意セサ

リキ但少シク内閣委員ニ問フ有ラン彼此兩國間ニ於テ犯罪人ヲ押付スルハ尤モ難事ニシテ之カ爲メニ特ニ條約ヲ結ヘル邦國アリト聞ク立案ノ趣意ハ我領事公使ニ人相書ヲ送りテ逮捕ヲ求ムレハ領事公使ハ其所在國ノ政府ニ依頼シ其政府ヲシテ之ニ應諾シ以テ罪人ヲ押付セシメントスルニ在ル歟然ラサレハ此ノ如ク本案ニ掲記スルモ果シテ其功用アリヤ否ヤ

○外三番 高島 眉山 本案ノ旨意ハ外國政府ニ向ヒ強テ逮捕ヲ求ムルニ非ス唯其逮捕ヲ求ムル端緒ヲ開クニ在ルノミ例ヘハ我軍艦ノ他邦ニ碇泊スルノ日偶マ遊歩ニ出テ若クハ逃亡シテ歸艦セサル者ノ如キ彼ノ地方官ニ依頼セサル可ラス是レ蓋シ彼ノ國地ニ在テハ我犯罪人ト雖モ直ニ逮捕スルヲ得サレハナリ但我レ之ヲ依頼スルモ彼レ



拒テ應諾セサレハ止ム彼ノ國中ヲ搜索シテ逮捕押付ヲ求ムルニ非  
サルナリ

○八番井田讓 本官ハ番外三番ノ二十八番ニ對スル答辨ニ疑團ヲ生セ  
リ本案第四十六條ハ被告人ノ所在ヲ覺知スル能ハサル時會ノ處置  
順序ヲ示ス者ナラスヤ然ルニ番外三番ハ我水夫等ノ出遊ト逃亡ト  
ヲ同視スル如ク陳述セリ其陳述タル二十八番ノ質問ノ外ニ渉ルニ  
似タリ尙ホ分明ノ辨說ヲ煩ハス

○番三番高島眉山 我水夫ノ出遊シテ歸艦セサル者ハ即チ逃亡ニシテ一  
ノ犯罪ナリ唯其出遊ノミヲ云フニ非ス

○八番井田讓 本官向ニ本條ニ對シ動議ヲ發シタルモ少數ニシテ消滅  
セリ然ルニ仍ホ修正ノ意見ヲ蓄フ知ラス更ニ之ヲ提出スルヲ得ル

歟

○議長 前說ト同シカラサレハ提出スルモ妨ケス

○八番井田讓 前說ト異ナリ其修正ハ本條ノ末項ヲ削去スルニ在リ本  
項ヲ存スルハ啻ニ功用ヲ見サルノミナラス各外國ノ慣習法律ニ適

○應セサル有リテ犯罪人ヲ押付スルト押付セサルトニ關シ或ハ紛議  
ヲ生スル無キヲ保タス且縱令此項ノ存セサルモ我水夫等ノ逃亡ス

○ル有レハ領事公使ハ彼政府ニ其逮捕ヲ依囑スルヲ得サルニ非ス寧  
口之ヲ削ルノ穩妥ナルニ如カス

○七番宮本小一 八番ノ動議ヲ贊成ス既ニ十四番ノ修正說モ少數ニシテ  
消滅シタレトモ尙ホ之ヲ熟考スルニ本項ハ全ク削去スルヲ得タリ

トス何トナレハ此項ニ當ル者ニシテ其實際ニ行ハル可キ國地ハ朝



鮮ノ釜山仁川支那ノ上海等ニ過キス其他英領香港米國桑法朗西哥  
濠洲悉德尼ノ如キニ至テハ假令人ヲ殺セシ犯人タリトモ容易ニ押  
付セサル可レハナリ且其逮捕ヲ求ムルモ十中ノ八九ハ行ハレス啻  
ニ無益ノ煩勞ヲ求ムルノミナラス恐クハ外國人ノ冷笑ヲ招カント  
ス是レ本官ノ八番ノ動議ヲ賛成スル所以ナリ

○議長 八番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三十六番 細川潤次郎 料ヲサリキ本條ニ對シ此ノ如キ修正說ノ出テン

トハ思フニ發議者ノ意ハ專ラ外國ナル文字ヲ嫌忌スルニ在ルナラ  
ン然ルニ本案ハ我司令官ヨリ我公使領事ニ逮捕ヲ求ムル順序ヲ示  
ス者ニシテ毫モ外國政府トノ交際上ニ關セス是等ハ決テ望慮ヲ須  
ヒスシテ可ナラン蓋シ彼我兩國ノ間ニ於テ罪人ヲ押付スル一事ハ

公法上ノ大問題ニシテ本案ノ與カリ知ル所ニ非ス某議官ハ賛成ノ  
意ヲ表シテ曰フ本案ノ如ク掲記スルモ或ル部分ニ行ハルルモ或ル  
部分ニ行ハレサレハ宜ク之ヲ削ルヘシト本官ノ意見ハ之ニ異ナリ  
假令一小部分タリトモ行ハルル有ラハ之ヲ行フニ何ノ不可カ之レ  
有ラン又凡ソ逮捕ノコトハ職權ニ關ス云云ノ論說アレトモ本案第  
三項ハ司令官ノ外國ニ於テ我公使領事ニ人相書ヲ送り其逮捕ヲ求  
ムルニ在リ即チ前項檢事長ニ逮捕ヲ求ムルト其事實毫モ異ナル無  
シ決シテ原案ノ如クスルモ其功用ヲ見ストハ斷ス可ラス因テ本官  
ハ現問題ニ同意スルヲ得サルナリ

○三十七番 津田真道 本官ハ三十六番ト同感ナルヲ以テ現問題ヲ非認ス

從來我國ノ外國交際ノ景況ヲ概言スルニ我ヨリ彼ヲ待ツ恰モ毒蟲



ニ觸ルル如キノ感ナキ能ハサルハ實ニ慨歎ニ堪ヘス發議者及ヒ贊成者ハ前ニ外交官衙ニ在リシカ故ニ其情態ヲ察知シ此ノ如キ怯懦ナル動議ヲ提出セルナラン然ルニ三十六番ノ詳陳セル如ク本案ニ對シテ斯ル罣慮ヲ要セサルハ本官亦斷シテ保證スル所ナリ贊成者タル某議官ハ云フ支那朝鮮ニハ行ハルト然ラハ此事項タル支那朝鮮ニハ必要ナルニ非スヤ本官ハ以爲ク啻ニ支那朝鮮ニ必要ナルノミナラス其逮捕ヲ求ムル順叙ヲ施スハ歐米諸國ニ對シテモ必要ナリト又此順叙ヲ施ス爲メニ彼我ノ交誼ヲ破ルコトハ萬モ之レ無キナリ論者モ知レル如ク目下裁判中ニ在ル某國駐在ノ我外交官ニシテ官金私用ノ罪ニ係ル事件アリ其犯罪ノ發覺セントスルヤ彼國ニ潛匿シテ久シク其跡ヲ没セシモ遂ニ逮捕シテ今日ノ裁判ニ付スル

○ニ至リシナラン又思フニ其犯人タル彼政府ニ依頼シテ之ヲ逮捕スルヲ得タリシナラン只獨リ國事犯ノ如キ彼政府ニ依頼スルモ容易ニ應諾セサル可シト雖モ盜罪犯等ノ如キハ然ラサルヲ信ス且ヤ我犯人ノ外國ニ在テハ假令洋服ヲ著シ洋人ニ擬スルモ其面貌ノ彼國人ト異ナルヲ以テ搜索逮捕ニ難カラス又本案ハ外國政府ノ我依頼ニ應スルヤ否ヤニ關スル者ニ非サレハ本官ハ原案ニシテ可ナルヲ確信ス

○八番 井田讓

三十七番ノ駁說ハ事實ヲ誤マレルカ如シ夫レ締盟各國ニ於テ特ニ犯罪人押付ノ約定ヲ爲セル者ニ非サルヨリハ假令盜罪犯タリトモ彼國法ニ據テ處斷セシ後ニ非サレハ押付セサルナリ又本官等ノ怯懦ニシテ此動議ヲ提出スト云ヘルモ本官ノ意想ハ決シ



テ然ラス此項ヲ存スレハ彼我ノ間ニ於テ多少ノ紛雜ヲ招クヲ恐ルルニ在リ何ソ怯懦ニシテ然ルナランヤ官金私用ノ犯罪人タル我外交官ヲ彼國政府ニ依頼シテ逮捕セル如ク説ケトモ事實全ク然ラス其然ラサル所以ハ此議席ニハ憚ル所アレハ陳述セサレトモ唯各國政府ノ容易ニ犯罪人ヲ押付セサルコトヲ確言スルナリ

○三十七番 津田 眞道 八番ノ反駁ニ云フ治外法權ヲ行フ各國ニ在テハ容

易ニ我依頼ニ應セスト或ハ然ラン然レトモ人ヲ殺ス者ヲ除クノ外放流等ノ明備ナル法律規則アリテ刑期既ニ滿レハ之ヲ押付ス其押付ノ一事ハ姑ク措キ第四十六條ノ末項ヲ存スル爲メニ彼我ノ間ニ紛雜ヲ生スルコト無キハ本官ノ信シテ疑ハサル所ナリ

○四十番 三浦 安 各議官ハ本項ニ對シ熱心以テ廢存ノ可否ヲ討論スレ

トモ本官ハ本項ヲ觀ル敢テ以テ重事ト爲サス三十六番モ陳述セル如ク我司令官ヨリ外國駐劄ノ我公使領事ニ逮捕ヲ求ムル順叙ヲ示ス者ナレハ何ソ敢テ本項ノ廢存ニ就キ其効用ノ有無ヲ論スルヲ須ヒンヤ或ハ武官ノ如キハ常ニ豪邁ノ氣象ヲ帶ル者ナレハ本項ヲ存シテ制裁ヲ示スノ善キニ如カサルナリ因テ本項ハ強テ之ヲ削除スルヲ要セス

○二十八番 箕作 麟祥 本官モ三十六番四十番等ノ述ル如ク本項ヲ以テ重大ノ關係ヲ有スル者トハ思考セス是レ其逮捕ノ手續ヲ明示セルニ過キスシテ歐米諸國ニ對シテハ功用ヲ見サル可キモ目下支那朝鮮等ニ功用ヲ見ハ原案ニ仍テ之ヲ存スルヲ可トス

○八番 井田 讓 尙ホ一言セン四十番ノ説ク所ニ依レハ武官ハ常ニ勇敢



○ヲ尙トフ者ナルカ故ニ本項ハ之ヲ存スルニ如カスト云フカ如シ本官ノ意見ハ之ニ異ナリ若シ此項ヲ存スレハ反テ武官ヲシテ粗暴ノ舉動ニ流レシムルノ恐レ無キヲ保タヌ又論者ハ一部分タモ本項ノ行ハルル國地アラハ之ヲ掲クルヲ妨ケスト云ヘリ然ルニ論者ノ云フ如クセンニハ其行ハルル國地即チ支那朝鮮云云ト記入セザレハ當ヲ得サラン到底本項ハ删除スルニ如カス聊カ前陳ヲ補ヒ以テ删除説ヲ主張ス

○議長 討議既ニ盡キタリ八番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ  
起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ八番ノ修正説ハ消滅ス他ノ條項ニ對スル發議ナキヲ以テ第三十二條乃至第五十六條ヲ可決ト認メ第五十七條

第五十八條ヲ議題ト爲ス

## 第六章 判決

第五十七條 鎮守府長官若クハ司令官審問事件ノ具申ヲ受ケ被告人人上長官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申シ其他ノ者ナル時ハ直ニ判決ニ付ス可シ

東京軍法會議ノ判士長審問事件ノ具申ヲ受ケ被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ之ヲ海軍卿ニ具申シ其他ノ者ナル時ハ直ニ判決ニ付ス可シ

第五十八條 海軍卿審問事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ軍法會議ヲ開ク可キ命令書ヲ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ下ス可シ



○議長 發議ナキヲ以テ兩條ヲ可決ト認メ第五十九條ヨリ第六十九條マテヲ議題ト爲ス

第五十九條 鎮守府長官若クハ司令官軍法會議ヲ開ク時ハ其命令書ヲ判士長ニ下シ其謄本ヲ訴訟文書ト共ニ主理ニ下付シ主理ハ之ヲ判士長ニ交付シ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ  
東京軍法會議ノ判士長軍法會議ヲ開ク時ハ之ヲ主理ニ通知シ主理ハ會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ

第六十條 軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士主理録事各其席ニ就キタル後判士長被告人ヲ出廷セシム  
判士長ハ先ツ被告人ノ官位勳等職名氏名族籍年齢住所ヲ問ヒ訊問ヲ爲スノ旨ヲ告示シ録事ヲシテ審問委員ノ報告書ヲ朗讀セシ

ム  
其朗讀終リタルノ後判士長ハ被告事件ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ其訊問ヲ爲サシム

第六十一條 判士長ハ開廷ヨリ判決ニ至ルマテ令狀ヲ發スルコトヲ得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ其處置ヲ爲スコトヲ得  
法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アル時ハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲サシム可シ

法廷ニ於テ證人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第五章ノ例ニ依ル  
第六十二條 判士長ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人出廷ノ命ニ應セサル時ハ之ヲ引致ス可シ但疾病其他正當ノ事故ニ因リ出廷



スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其審判ヲ延期スルコトヲ得  
第六十三條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ審判ノ日時  
ニ出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可シ

第六十四條 被告人逃走シテ審判ノ日時ニ出廷セス又ハ召喚狀ヲ  
送達スルコトヲ得サル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可シ

第六十五條 數人共犯ノ審判ヲ爲ス時被告人中闕席シタル者アリ  
ト雖モ出廷シタル者ニ對シ審判ヲ爲ス可シ

第六十六條 判士長ハ被告人ヲ訊問シタル後證人ヲ訊問シ若クハ  
判士ニ命シテ訊問セシム可シ

第六十七條 判士長ハ證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上  
ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發シ更ニ訊問ヲ爲シ

若クハ判士ニ命シテ訊問ヲ爲サシメ東京軍法會議ノ判士長ハ其  
證人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ海軍卿ニ具申シ鎮  
守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ判士長ハ各其所管長官ニ具  
申ス可シ

其處分ヲ爲シタル時ハ判士長ハ本件ノ審判ヲ延期スルコトヲ得  
第六十八條 判士長ハ法廷ニ於テ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトア  
ル時ハ其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲サシム可シ  
法廷ニ於テ共犯ヲ覺舉シタル時ハ第六十七條ノ例ニ從ヒ具申ス  
可シ

若シ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ本件ト共ニ其審判ヲ爲ス可シ

第六十九條 判士長ハ被告人及ヒ證人ノ訊問終リタル時ハ更ニ被



告人ニ對シ他ニ陳述ス可キ事件ナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタルノ旨ヲ告ケ被告人ヲ退廷セシム可シ

○二十八番 箕作麟祥 本官ハ第六十七條ニ修正ヲ加ヘントス此條ハ前會

ニ於テ内閣委員ニ質問セシ如ク原案ノ行文ハ妥貼ナラス其修正ハ本文ノ一字一句ヲ増損セスシテ唯其字句ヲ轉置スルノミ其文案ハ本條第一項ヲ「判士長ハ證人ノ陳述不實ニシテ云云判士ニ命シテ訊問ヲ爲サシメ鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ判士長ハ各其所管長官ニ具申シ東京軍法會議ノ判士長ハ其證人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ海軍卿ニ具申ス可シ」ト爲スニ在リ各官中或ハ各軍法會議ノ序次ヲ失ストノ感覺ヲ有スル無キニ非サル可シ然ルニ第七條ニハ東京軍法會議鎮守府軍法會議ト記列スレト

モ第五十七條ニハ鎮守府軍法會議ヲ先ニシ東京軍法會議ヲ後ニス  
是レ敢テ序次ニ關セサルカ如シ願クハ多數ノ同意ヲ得テ此修正說  
ノ成立センコトヲニハ

○二十五番 西村貞陽 賛成

○十四番 田邊太一 賛成

○議長 二十八番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○三十七番 津田眞道 原案ノ行文ニテ解シ得サルニ非サレトモ彼此相較

フレハ稍ヤ現問題ノ優レルヲ覺フ因テ本官亦之ニ同意ヲ表ス

○議長 第五十九條乃至第六十九條マテヲ議題ニ付セリ然ルニ第六十七條ニ對スル二十八番ノ動議ノ問題ト爲レル外ニ他ノ各條ニ對シ發議スル無ンハ他ノ各條ハ可決ト認メン現問題ニ同意スル者ハ



起立セヨ

起立者十一人

○議長 多數ナルヲ以テ二十八番ノ修正説ニ決シ第七十條ヨリ第七十八條マテヲ議題ト爲ス

○第七十條 判決書ハ判士事實ト法律トニ依リ左ノ條件ニ照シ之ヲ作リ判士長判士録事署名捺印ス可シ

○一有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ記ス

○二無罪ノ判決書ニハ被告事件罪トナラサルコト及ヒ其理由ヲ記シ犯罪ノ證據備ハラサル時ハ其旨ヲ記ス

○三免訴ノ判決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト大赦アリタ

ルコト法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト及ヒ其理由ヲ記ス

四被告人ノ官位勳等職名氏名族籍年齢住所及ヒ軍法會議判決ノ年月日ヲ記ス

第七十一條 鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ判士長ハ判決書ニ訴訟文書ヲ添へ各其所管長官ニ具申ス可シ

第七十二條 鎮守府長官司令官ハ左ニ記載スル事件ハ海軍卿ニ上申シテ命ヲ請ヒ其他ハ之ヲ專決ス

死刑

上長官及ヒ同等以上軍人ノ重罪輕罪

士官准士官及ヒ同等軍人ノ重罪

第七十三條 東京軍法會議ノ判士長ハ判決書ニ訴訟文書ヲ添へ海



軍卿ニ上申シテ命ヲ請フ可シ

第七十四條 鎮守府長官司令官ハ其判決ヲ不適當ト思量スル時ハ

其專決ノ權アル事件ハ直ニ之ヲ再議セシムルコトヲ得

其專決ノ權ナキ事件ハ意見ヲ附シテ海軍卿ニ上申ス可シ

第七十五條 海軍卿ハ其判決ヲ不適當ト思量スル時ハ直ニ其具申

スル所ノ鎮守府長官司令官若クハ東京軍法會議ノ判士長ニ下シ

テ之ヲ再議セシムルコトヲ得

海軍卿ハ死刑並上長官以上及ヒ同等以上軍人ノ重罪輕罪並士官

及ヒ同等奏任官軍人ノ重罪ニ係ルモノハ上奏シテ命ヲ請フ可シ

第七十六條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長判士主理錄事法

廷ニ臨ミ被告人ヲ出廷セシメ判士長其宣告ヲ爲ス可シ

第七十七條 外國若クハ航海中ニ於テ司令官又ハ艦長ハ輕罪ノ刑

ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ

日數ハ刑期ニ算入セス

第七十八條 行刑ニ關スル方法ハ海軍卿別ニ之ヲ定ム

○八番 井田 讓 少シク内閣委員ニ質問ス第七十七條ニ戴罪ト言ヘルハ

如何ナルコトヲ謂フヤ

○番 高島 眉山 戴罪トハ有罪者ニシテ本務ニ從事シ即チ罪ヲ頭上ニ

戴キテ服務スルノ義ナリ是レ航海中人員不足ノ時ニ方リ便宜犯罪

者ヲ直ニ刑ニ處セスシテ本務ニ從事セシムルヲ謂フ但其服務間ノ

月日ハ刑期ニ算入セス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第七十條乃至第七十八條ヲ可決ト認メ



第七十九條第八十條ヲ議題ト爲ス

第七章 軍中處分

第七十九條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官麾下ノ將校若クハ其地ニ在ル將校中ヨリ撰ミ專任判士ヲ置キ被告人ノ官等ニ拘ハラス之ヲ審判セシム但將校缺乏ノ場合ニ於テハ他ノ官吏ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第八十條 合圍ノ地ニ於テハ第十三條第十四條第十五條ニ記載シタル者ハ合圍軍法會議ノ權限ニ屬ス

○議長 發議ナキヲ以テ兩條ヲ可決ト認メ第八十一條ヨリ第八十四條即チ本案ノ末條マテヲ議題ト爲ス

第八十一條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官被告人ノ官等

ニ拘ハラス直ニ審判及ヒ其宣告執行ノ命令ヲ下スコトヲ得

第八十二條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官又ハ艦長ハ輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ載罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日數ハ刑期ニ算入セス

其戴罪服務中功績アル者ハ司令官其刑ヲ減免スルコトヲ得

第八十三條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官時宜ニ因リ此治罪法ノ條目ヲ省略處分セシムルコトヲ得

第八十四條 合圍軍法會議ヲ廢スルニ當リ既ニ審判ニ着手シタル者ハ海軍卿ノ指定スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ送致ス可シ

○議長 發議ナキヲ以テ第八十一條乃至第八十四條ヲ可決ト認メ此



○ニ第二讀會ヲ了ル然ルニ本會ニ於テ唯一條ニ修正ヲ加フルニ止マリ其修正モ字句ヲ前後シタルニ過キス因テ直ニ第三讀會ヲ開キ朗讀ヲ省キ全案ヲ擧テ議題ニ付ス  
○今第二讀會ニ修正ヲ加ヘタル第六十七條ノミヲ擧テ其他ハ之ヲ省ス

第六十七條 判士長ハ證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ發シ更ニ訊問ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ訊問ヲ爲サシメ東京軍法會議ノ判士長ハ其證人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ海軍卿ニ具申シ鎮守府軍法會議若クハ艦隊軍法會議ノ判士長ハ各其所管長官ニ具申ス可シ

其處分ヲ爲シタル時ハ判士長ハ本件ノ審判ヲ延期スルコトヲ得

○三十七番 津田眞道 議長ノ演述セル如ク本案ハ僅僅ノ修正ニ止マリ原

案ノ意義ニ變換ヲ致セル無シ因テ一擧之ヲ議決シ直ニ上奏センコトヲ望ム

○議長 本案全篇ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ヲ可ト決シ例ニ從ヒ上奏セン且告ク來ル火曜日ヲ以テ地租法議案第三讀會ヲ開カン本日ハ散會セヨ  
午後第二時四十分閉場



元老院會議筆記明治十七年二月十九日

禁傍聽

○第四百二十八號議案 地方稅規則第三條第一讀會

○第四百二十九號議案 區町村會法改正ノ儀 同

○第四百三十號議案 區町村費規則制定ノ儀 同

議長 佐野常民

出席議員

二番 渡邊 洪基

三番 東久世通禧

七番 官本 小一

八番 井田 五讓

九番 神田 孝平



十一番 楠本 正隆

十二番 榎村 正直

十三番 大久保一翁

十四番 田邊 太一

十七番 福原 實

十八番 大給 恒

二十番 林 友幸

二十三番 橋口 兼三

二十四番 大鳥 圭介

二十七番 渡邊 清

二十八番 箕作 麟祥

三十番 柴原 和

三十一番 上杉 茂憲

三十二番 鷺尾 隆聚

三十五番 鍋島 直彬

三十七番 津田 眞道

三十八番 海江田信義

三十九番 伊集院兼寛

四十番 三浦 安

四十一番 西 周

四十二番 長岡 護美

四十五番 神山 郡廉



内閣委員一番外參事院議官安場 保和

同二番外參事院議官補牧 朴眞

同三番外參事院員外議官補白根 專一

午前第十時五分開場

○議長 本日ハ號數ヲ逐ヒ第四百二十八號以下三議案ノ第一讀會ヲ

開ク

書記官森山茂 朗讀

布告案

明治十三年四月第拾六號布告地方稅規則第三條第十五項左ノ通改正

ス

一戸長及戸長役場書記給料旅費

右奉 勅旨布告候事

○一番外安場 保和 本案ハ今日各府縣ノ情勢實ニ已ム可ラサル者アルカ

爲メニ之ヲ發布セントス抑モ戸長ハ所謂半官半民ノ性質ヲ有シ即

チ人民ニ對シテハ行政事務ノ施行ニ任シ政府ニ對シテハ人民總代

ノ地位ニ立ツ故ニ其職務取扱諸費ノ如キ見ニ地方稅ト町村協議費

トノ支辨スル所トス然リ而シテ其費額ノ分賦ニ至テハ各府縣共ニ

之ニ困セサルハ莫シ加之十一年ニ郡區町村編制法ヲ發布セシ以來

戸長ノ職務ハ歲月ヲ逐フテ繁忙ニ赴キ隨テ大ニ其費用ヲ増シ今日

地方稅中最モ多額ヲ占ル者ハ戸長以下給料及ヒ戸長役場諸費ノ各

項ニシテ町村協議費モ亦爲メニ年年ニ増加ス故ニ早ク錯雜ナル法

則ヲ改正シテ明カニ費用支出ノ途轍ヲ別ツニ非サレハ則チ將來行



政上ニ困難ヲ來ス可キハ瞭トシテ火ヲ視ルカ如シ是レ本案ノ以テ  
 戸長及戸長役場書記給料旅費ハ地方稅ヨリ支辨セシメ而シテ戸長  
 役場費町村用掛給料旅費等ハ區町村費ヨリ支辨スル者ト爲シテ之  
 ヲ別案ニ讓レル所以ナリ原來這般下付セル三案ハ或ハ從前ノ法律  
 ヲ改正シ或ハ從前町村ニ放任セシ者ヲ檢束スルニ在リテ共ニ行政  
 上ノ便益ヲ圖ルニ外ナラス本案ノ旨趣タル大略此ノ如シ若シ疑義  
 ノ在ル有ラハ質問ニ應シ答辨セン他ノ二議案ノ理由ノ如キハ時機  
 ヲ俟テ陳述ス可キナリ

○二番 渡邊 洪基 議長ニ問フ此三案ハ一案毎トニ之ヲ議スル歟將タ三案  
 ヲ聯帶シテ之ヲ議スル歟每案ニ之ヲ議スルトセハ本官等其大體ニ  
 對スル意見ヲ陳ルニ困シム三案ヲ聯帶シテ之ヲ議セハ如何ン

○議長 號數モ同シカラス布告案モ亦異ナレハ各別ニ之ヲ議セント  
 ス然レトモ三案共ニ其事ノ牽連セル爲メニ二番若シ聯帶シテ之ヲ  
 議スルヲ可トセハ宜ク特ニ建議スヘシ

○二番 渡邊 洪基 三案ヲ聯帶シテ議センコトヲ建議ス

○議長 二番ノ建議ノ決ヲ取ン之ニ同意スル者ハ起立セヨ  
 起立者二十一人

○議長 多數ナルヲ以テ二番ノ建議ニ決シ即チ第四百二十九號第四  
 百三十號ノ二議案ヲ朗讀セシム

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

明治十三年 四月 第拾八號布告區町村會法左ノ通改正ス



區町村會法

第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス

第二條 區町村會ノ會期、議員ノ員數、任期、改選及其他ノ規則ハ府知事縣令之ヲ定ム

第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戶長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス

第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メテ府知事縣令ノ指揮ヲ請フヘシ

第五條 區長ニ於テ區會、郡區長戶長ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ

背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ府知事縣令ハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得

第六條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戶長ハ府知事縣令ノ認可ヲ得

テ第一條ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

第七條 區町村ニ於テ議員ヲ選舉セス又ハ議員招集ニ應セスシテ

會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第八條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ



其區町村ニ居住シ其區町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府  
縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル、者及陸海軍々人  
現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第九條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子ニシテ  
其區町村ニ住居シ其區町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府  
縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ議員  
タルコトヲ得ス

第十條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戸長ヲ以テ之ニ充ツ區  
長戸長若シ事故アルトキハ區長戸長ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指  
定スルコトヲ得

第十一條 府知事縣令其管轄内ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラサ

ル狀況アルヲ認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十二條 府知事縣令ハ數區町村ニ關涉スル事件アルトキハ其區  
域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得

第十三條 府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ノ關係ニ依リ區町  
村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ  
ハ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得

第十四條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域  
區長戸長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ  
之ヲ管理セシム但戸長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘ  
シ

右奉 勅旨布告候事



布告案

區町村費規則左ノ通制定ス

區町村費規則

第一條 區町村費ヲ以テ支辨スヘキ目左ノ如シ

- 一 戸長役場費
- 一 町村用掛給料旅費
- 一 教育費
- 一 土木費
- 一 區町村會議費
- 一 衛生費

一 救助費

一 災害豫防及警備費

一 豫備費

右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ區町村會ノ評決ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ其認可ヲ受クヘシ

第二條 區町村費ヲ徵收スヘキ課目左ノ如シ但現品又ハ夫役ヲ以

テ徵收スルコトヲ得

○ 一地價割又ハ段別割

○ 一營業割

○ 一戸別割

右ノ外地方適當ノ課目アルトキハ區町村會ノ評決ヲ經府知事縣



令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ徴收スルコトヲ得

第三條 區町村ノ經費ハ其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一週年度トナシ其豫算ヲ定メ區長ハ區會戸長ハ町村會ノ評決ヲ取り府知事縣令ニ具申スヘシ

第四條 區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ區長ハ區會戸長ハ町村會ノ評決ヲ取り府知事縣令ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルコトヲ得

第五條 豫備費ヲ以テ給足セサル臨時ノ費用アルトキハ區長ハ區會戸長ハ町村會ノ評決ヲ取り別ニ賦課スルコトヲ得其急施ヲ要

スルトキハ便宜施行シテ後區町村會ニ報告スルコトヲ得

第六條 前年ノ經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ不足ヲ生スルモノアルトキハ區長ハ區會戸長ハ町村會ノ評決ヲ取り其補充費ヲ徴收スルコトヲ得

第七條 區長戸長ハ一週年度間ノ出納ヲ計査シ決算帳ヲ製シ翌年之ヲ區町村會ニ報告シ府知事縣令ニ具申スヘシ

第八條 議會ヲ開設セサル町村ハ戸長ニ於テ其經費ノ支出徴收方法ヲ定メ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行ス

第九條 區町村費ノ怠納者ハ明治十年<sup>十一月</sup>第七拾九號布告ニ據リ處分スヘシ但財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ官沒ノ手續ヲナス區長又ハ戸長ニ於テ之ヲ管掌シ其處分ハ區町村會ノ評決ニ



付スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○番一安場  
外一番保和

只今此三案ヲ合セテ第一讀會ニ付セリ因テ前ニ地方  
稅規則第三條第十五項改正ノ要領ヲ陳セシモ尙ホ此三案ノ要領ヲ  
括シテ之ヲ陳セン各位モ知ル如ク地方稅規則區町村會法其他協議  
費即チ町村費ノ收支ニ關スル法則等明治十一年ニ新設シ十三年ニ  
大改正ヲ加ヘ爾後單行布告ヲ以テ數次之ヲ更定シ前後七年ノ星霜  
ヲ經テ今日ニ至レリ然ルニ地方人民ノ智識漸ク進ムニ隨ヒ從前ノ  
法律以テ之ヲ管制スルニ足ラス是レ本案ノ頒布ヲ要スル所以ナリ  
本案ハ初メ内務省屬稿シテ各地方官ニ諮問シ尙ホ稽查ヲ經テ内務  
卿ヨリ太政官ニ具申シ内閣例ニ仍テ參事院ノ會議ニ付シ其決議ヲ

酌取シテ以テ本院ニ下付セシナリ蓋シ現行地方稅規則區町村會法  
等ヲ制設セシ因由並ニ其創施以來ノ景況ハ各位既ニ知悉ス可キヲ  
以テ今復タ贅述セス抑モ今日此改正ヲ要スルハ人心ノ趨向ヲ察シ  
現行法ノ缺漏ヲ補ヒ以テ地方行政事務ヲ整頓セント欲スルニ外ナ  
ラス思フニ十一年ニ定メタル行政區域ハ府縣郡區ニ止メ町村ハ自  
治ニ任スノ意ヲ以テ一ニ戶長ノ管理ニ委シ別ニ明備ナル規則ヲ設  
ケス且凡ソ公共ニ涉ル郡區ノ事業ハ地方稅ヲ以テ其費用ヲ支辨シ  
町村ノ事業ハ協議費ヲ以テ其費用ヲ支辨セリ爾來府縣郡區町村共  
ニ年ヲ逐テ其事務ニ煩忙ヲ加ヘ隨テ地方稅支辨及ヒ國庫支辨ノ各  
部分ニ變更ヲ來シ地方ノ負擔ハ漸ク重ク遂ニ町村ノ事業ヲ措關ス  
ルニ至レリ前者協議費中ノ土木費ニ限り其怠納者ヲ公賣處分ニ付



スルコトニ定メシハ畢竟怠納者ノ多キカ爲メナリ然ルニ其他ノ費目ト雖モ皆已ムヲ得サル者ニ非サル莫キニ現行法ニ於テハ協議費ノ怠納者ニ對シ十年第七十九號布告ニ據リ處分スル能ハス夫レ協議費ハ土木費ノ一目ニ限ラス衛生費ナリ教育費ナリ皆是レ公共ノ費目ニシテ均シク緊要ナラサル無シ故ニ今之ヲ法律ニ明記シ以テ人民ヲシテ其當サニ盡スヘキ義務ヲ盡サシメントスルニ在ルナリ蓋シ現行法ハ人民ノ協議ニ任スト云フニ在レハ甚タ便利ナルニ似タレトモ是レ公共ノ利害ニ關セス獨自ノ利害ヲ謀ル者ニ便利ヲ與フルノミニシテ善良ナル人民ハ却テ痛苦ヲ受ケントス論者或ハ曰ン此ノ如キハ嚴酷ニ失スト是レ一理ナキニ非サルモ一得一失ハ數ノ免レサル所ナリ因テ請フ各議官今日實際ノ弊害如何ヲ照較シ以

テ本案ヲ賛成センコトヲ

○二番 渡邊 洪基

本官ハ此三案ノ利害ヲ熟考スルニ甘服スル能ハサル者甚タ多シ抑モ十一年以來地方行政區域ハ郡區ニ止メ町村ハ其自治ニ委セリ然ルニ今其慣行ヲ破リ之ヲ行政區域ニ入ントスル是レ其不可ナル一ナリ又本案ヲ觀ルニ法律ノ體面ハ頗ル整美ナル如キモ是カ爲メニ費用大ニ増加セントス第二十八號議案ニ「戸長及戸長役場書記給料旅費」ト言ヘリ之ヲ現行法ノ「戸長以下給料及戸長職務取扱諸費」ト言フニ比スレハ地方稅ハ輕減ヲ得ルニ似タレトモ自今戸長以下ノ給料ヲ増加シ其實地方稅ハ輕減ヲ得ルニ非ス加之區町村費規則ヲ制シ戸長役場費町村用掛給料旅費等ノ費目ヲ定メテ其費用ヲ區町村ニ徵收スルヲ以テ人民ノ負擔ハ却テ重キヲ加フ



可シ回顧スルニ陸海軍ヲ擴張スル爲メ一昨年以來多ク増税ノ布告ヲ發セリ此等ハ已ムヲ得サルニ出ルモ目下人民既ニ其負擔ニ苦マサルニ非ス然ルニ此際又此法案ヲ發シ以テ更ニ費用ヲ増加セシム是レ其不可ナルニナリ區町村會ハ從來協議會ナルヲ以テ其議員ノ選舉モ亦嚴格ノ方法ヲ設クルコト無シ然ルニ這般全國三萬有餘員ナル戸長ノ管轄スル區町村ヲ通シテ畫一ノ法則ヲ施サントス是レ其不可ナルニナリ思フニ今日町村ヲ自治ニ委スルハ幾分カ弊害ナキニ非サルモ亦許多ノ便利ナキニ非ス若シ百般ノ事物舉ナ之ヲ法律ニ掲ケ以テ人民ニ臨ム如クンハ政治ハ木偶人ニ委シテ足ルノミ本案ノ如キハ無用ノ干涉ヲ爲ス者ト謂フ可シ尙ホ本官ノ本案ヲ非視スル二三ノ點ヲ舉ケン區町村會法改正案ニハ議員タルコトヲ得

ル資格ヲ地租ヲ納ムル者ニ限レリ現行府縣會規則ニモ此ノ如キ制限ヲ立ル有リ然レトモ是レ當時之ヲ措キテ他ニ議員タル資格ヲ定ム可キ標準ヲ得サルニ由レリ故ニ是等ハ已ムヲ得サレトモ原來單ニ地租ヲ納ムルノミヲ以テ納税ノ義務ヲ盡ス者ト謂フ可ラス然ルヲ獨リ之ニ對シテノミ選舉權被選舉權ヲ有セシムルハ公平ヲ失スルニ非スヤ幸ニ町村ニハ從來未タ此ノ如キ法律ノ制限ヲ施セル有ラス故ニ其便宜ニ委セ以テ公平ヲ得セシメサル可ラス然ルニ本案モ亦唯地租ヲ納ムル者ニ限り其他ノ人民ハ均シク納税ノ義務ヲ盡スモ選舉權被選舉權ヲ有スル能ハサラシム是レ公平ヲ失スルノ甚キナリ又此法案ノ精神ニ據レハ大ニ戸長ノ員數ヲ減シ一戸長ニシテ數町村ヲ管轄セシメントス然ルモ町村會ハ仍ホ其各町村ニ開設



セサルヲ得サラン一人ノ戸長ニシテ各町村會ノ議長ト爲ルハ能フ  
 可キニ非ス故ニ本案ハ區戸長ニ許シテ議員中ヨリ議長ヲ指定スル  
 コトヲ得セシムル便法ヲ設ケリ例スルニ數箇ノ會議ヲ開ク有ラン  
 ニ其事件ハ同一ナルモ甲乙決議ヲ異ニシ隨テ其實施ニ異同ヲ生セ  
 ントス此ノ如キハ戸長ノ困難モ亦甚シカラスヤ是ニ由テ之ヲ觀ル  
 ニ本案ノ如クセハ一タヒ各町村會ノ決議ヲ經タル後チ更ニ聯合會  
 ヲ開キテ再ヒ決議スルヲ要セン又總テ戸長ヲ官選ト爲シ之ヲシテ  
 町村會ノ議長タラシメントスルニハ其給料ヲ増シ及ヒ其身位ヲモ  
 陞セサル可ラス而シテ其費用ハ必ス地方稅若クハ協議費ヨリ支辨  
 セサル可ラスシテ人民ノ負擔ハ一層ニ重キヲ加ヘン又區町村費規  
 則第二條ニ列記セル科目ハ今日實行スル者ト異ナルニ非サレトモ

斯ノ如ク法文ニ明記スルトキハ彼ノ法律ヲ以テ選舉權被選舉權ヲ  
 定ムルト同シク是カ爲メニ斟酌取捨ノ便宜ヲ失ス可シ只其但書ニ  
 云云セル有ルヲ以テ全ク斟酌取捨ノ便宜ヲ絶ツニハ非サレトモ原  
 來金錢ヲ出スヲ欲セサルハ人情ノ常ナレハ遂ニ町村人民ノ負擔ニ  
 偏重偏輕ノ弊ヲ生スルニ至ル可シ看ヨ營業割ノ課金ヲ納ムルハ工  
 商ニ止マリ官吏醫師代言人等ハ之ヲ納メス戸數割ノ課金モ家屋ヲ  
 所有スル者ニ限り之ヲ納ムルヲ以テ官吏醫師代言人等ノ家屋ヲ所  
 有セサル者ハ毫モ之ヲ納ムル無シ故ニ其費用ハ皆農工商ノ負擔ニ  
 歸ス然リト雖モ今日ハ町村ノ協議ニ委スルヲ以テ纔ニ能ク此等ノ  
 權衡ヲ持セシムルヲ得タルニ斯ノ如ク法律ニ明記スル以上ハ復タ  
 今日ノ權衡ヲ持スル能ハサルヤ必セリ之ヲ要スルニ人民ヲシテ國



家ノ大體ニ關スル費用ヲ負擔スル義務ヲ盡サシムル爲メニ務メテ人民ニ餘裕ヲ得セシメ町村協議ノ美風ヲ破壊セス併セテ從來ノ戸長ヲ變シテ小郡長タラシムル無キハ本官ノ深ク望ム所ナリ

○十一番 補本  
正隆

本官モ聊カ本案大體ニ對スル意見ヲ陳シ抑モ町村ヲ自治ニ任スハ舊幕府以來ノ慣習ト爲ス然ルニ近來地方自治ニ關シ幾分カ其弊ヲ見ル無キニ非サレトモ一利一害ハ數ノ免レサル所ナリ今又戸長ノ事務ニ關シ本官ノ宿論ヲ吐シ今日戸長ノ事務益多キヲ加へ而シテ其役場ニ需要スル金額ハ常ニ少キヲ告ケ隨テ事業ノ舉ヲサルハ各位ノ知悉スル所ナラン昨今ノ景況ヲ見ルニ敏捷ナル戸長ト雖モ能ク普ク其事務ヲ處辨スルヲ得ス而シテ一方ニハ人民ノ刺撃ヲ受ル有リ是ヲ以テ其職ヲ辭スル少ナシトセス故ニ本官

ハ戸長ノ事務ノ件内ヨリ租稅徵收ノ一件ヲ割キ租稅徵收吏員ヲ設ケテ之ニ此事務ヲ特任シ以テ戸長ノ事務ヲ公證其他ノ各件ニ限ラシムルヲ可トス果シテ此ノ如クハ今日ノ如ク其事務輻湊セス又人民ノ刺撃ヲ受ケス且能ク適當ノ人物ヲ舉ルヲ得シ是レ本官ノ宿論ナリ抑モ本案ハ一町村ニ向テ其一町村稅ヲ課スル精神ニシテ斯ノ如キハ急激ノ大變革ト謂フ可シ且ヤ或ル議官ノ論セシ如ク法律ヲ以テ徵收スル者ト定ムレハ從來一町村ノ富豪者ニ出金ヲ乞ヒ又ハ德義者ノ自ラ進ミテ同町村住民ノ爲メニ多額ノ出金ヲ爲シ以テ協議費ヲ補助セル美風ハ此ヨリ躓ヲ絶ントス又戸長ヲ官選ト爲ストキハ本邦復々人民自治ノコトヲ餘ス無ラン見ニ二十三年ヲ期シテ國會ヲ開設セントスル聖詔ヲ下セルニ今日翻テ此等ノ法律ヲ發ス



ルハ實ニ將來ニ顧慮スル無キ能ハス故ニ本官ハ本案ニ左袒スル能ハサルナリ

○十二番<sup>榎村</sup>正直 本官ハ此三案ヲ非視セス抑モ十三年ニ區町村會法ヲ制定セル時際ハ務メテ從來ノ慣習ヲ保持シタルモ社會ノ進歩スルニ隨ヒ今日此會法ノ放任ニ失スルヲ悟リ區町村費規則ノ如キモ區町村會法ヲ制スル日ニ於テ既ニ之ヲ論セシ者アリシニ依然土地ノ便宜ニ委スルヲ可トシテ寢ミタルモ今日亦轉タ弊害ヲ見ルニ至レリ現行地方稅規則第三條第十五項ニ「戶長以下給料及ヒ戶長職務取扱諸費」ト言ヘル有リ而シテ戶長ノ事務ハ行政ニ係ル者ト町村ニ屬スル者トノ差別アリ因テ其費用ハ地方稅ト町村費トヨリ支辨シタルモ戶長ノ職務ハ繁雜ニシテ一一區別ス可ラス故ニ其費用ノ

幾許ハ地方稅ニ徵シ幾許ハ町村ニ徵セハ果シテ適當ナルヤヲ知ラスシテ各町村往往ニ其處分ヲ異ニス然ルニ本案ハ判然其區別ヲ示スヲ以テ之ヲ發セハ大ニ地方官ニ便宜ヲ與ヘ此レヨリ紛錯ヲ免ルルヲ得ントス初メ區町村會法ヲ制定セシ時際本官職ヲ地方官ニ奉シテ其會議ニ參シ幾許ノ修正ヲ加ヘタル一人ナリ當時ニ在テハ町村ノ集會ニ無益ノ費用ヲ要シ甚キハ鎮守神祠祭禮ノ費用等ヲ公然ニ賦課スル有リ故ニ此等ノ弊害ヲ矯メ併セテ慣習ヲ破ラサルニ力メタリ然ルモ今日ハ既ニ已ニ從來ノ法律ニ放任ス可キニ非ス是レ本官ノ此三案ヲ非視セサル所以ナリ一二ノ內閣委員ニ質問ヲ要スル有リ第四百二十九號議案第四條ニハ評決ノ文字ヲ用ヒ其第七條ニハ議定ノ文字ヲ用ヒ而シテ其末文ニハ評決ノ文字ヲ用ヒタリ是



レ深意アリテ然ル乎又其第八第九兩條ノ議員タル資格ノ如キ府縣會規則第十三條第五款ニ據レハ「府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者」ト言ヒ即チ府縣會ニ於テ一旦退職者ト爲ルトキハ四年間府縣會議員ト爲ルヲ得サル成規ナルモ區町村會ニハ其人ヲ議員ニ舉ルコトヲ得ル乎若クハ府縣會議員ニシテ區町村會議員ヲ兼ルコトヲ得ル乎又其第十三十四兩條ノ水利土功ニ關シテ區町村會若クハ聯合區町村會ヲ開設スル如キ其議長ハ何人ヲ以テ之ニ充ル乎尙ホ之ヲ詳說セハ一町村ノ會議ハ其町村ノ戸長ヲ以テ議長ト爲スハ本法ニ依テ明瞭ナルモ數町村ニ涉ルトキハ數人ノ戸長アルヲ以テ其中ノ一人ヲ舉テ議長ト爲スナラン其方法ハ如何シ又一町ニ幾分一村ニ幾分ト甲乙ノ間ニ關係ノ多少ヲ異ニスル水利

土功會議ノ議長ハ何人ヲ以テ之ニ充ル乎又凡ソ町村會ノ議事若シ法ニ背キ若クハ治安ヲ害スル有リト認レハ區長戸長其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フハ本法ノ定ムル所ナルモ第十四條ニ示セル區町村會聯合區町村會ノ議事ニ關シテ此具狀ノ權ヲ有スルハ何人ナル乎尙ホ問フ其第五條第二項ニ據レハ區町村會ノ會議ヲ中止スル如キ府知事縣令之ヲ爲ス能ハサルニ似タルモ府縣會規則ヲ觀ルニ全ク然ラス本案ノ意旨ハ果シテ何レニ在ル乎

○番三番白根  
外三番專一

十二番ノ質問ニ答ヘン評決ト言ヒ議定ト言ヘルハ敢

テ深意アルニ非ス然レトモ亦全ク理由ナキニモ非ス現行區町村會法第一條ニ「議定」ト言ヘルト其他ニ評決ト言ヘルトニ從フ第七條ニ「議定スヘキ議案ヲ議定セス」ト言ヘルハ第一條ニ「區町村會ハ區



町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス  
ト言ヒ即チ區町村會ノ精髓タル議定スヘキ議案ヲ議定セサル如キ  
ハ尋常評決ノ場合ト異ナルヲ以テ特ニ議定ノ文字ヲ用ヒタリ又府  
縣會議員ノ退職者ヲ區町村會議員ト爲スハ敢テ妨ケス蓋シ府縣會  
ニ於テ退職者ト爲スハ府縣會規則第九條第二項ニ「府縣會ハ議員  
ノ内招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサル者ヲ審査シ其  
退職者タルヲ決スルヲ得」ト言ヘル明文ニ據ルノミ敢テ他ノ過失  
ヲ犯シタルニ非ス故ニ若シ之ニ區町村會ノ議員タルヲ禁セハ恐ク  
ハ苛酷ニ陷ルヲ免レス又府縣會議員ニシテ區町村會議員ヲ兼ルモ  
亦之ヲ禁セス見ニ德島縣名東郡某町村會議長安倍某ハ德島縣會議  
長ヲ兼ヌ今後ト雖モ此ノ如キコトハ其便宜ニ委セントスルナリ若

シ夫レ水利土功會ヲ開ク場合ハ現行法ト異ナラス而シテ數町村連  
合ノ會議ハ郡長若クハ區長ヲ以テ之カ議長ニ充テ又其數町村ニ涉  
リ甲乙其關係ニ大小ノ差ヲ存スルトキハ其關係ノ最モ大ナル町村  
ノ戸長ヲ以テ之カ議長ニ充ル等府知事縣令ノ適宜ニ指定ス可キ者  
トス又第五條第二項ニ「前項ノ場合」ト言ヘルハ第一項ノ指揮ヲ請  
フ場合ヲ指スニ非ス即チ議事ノ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スル有リト  
認ムル場合ヲ指ス故ニ區町村會ヲ中止スルハ府知事縣令ノ意斷ヲ  
以テ之ヲ爲ス必シモ郡區長ノ請求ヲ俟テ之ヲ爲スニ非サルナリ  
○二十八番箕作麟祥 本官ハ未タ嘗テ地方官ノ職ニ居リシコト有ラス又  
未タ嘗テ各地方ヲ巡視セシコト有ラサルヲ以テ甚タ地方ノ事情ニ  
疎ナリ然リ而モ見ニ議官ノ職ニ具ハル以上ハ本案ニ對シテ意見ヲ



陳セサル可ラス俗諺ニ云フ當局者ハ惑ヒ傍觀者ハ明カナリト此言  
 ヤ必シモ當ラスト謂フ可ラス抑モ此三案ハ事實已ムヲ得サルニ出  
 タル可キモ其大體ノ可否如何ヲ論セハ本官ハ二番ト意見ヲ同ウス  
 原來本案ハ町村ヲ行政區域ニ編入シ戸長ヲ官選ト爲シ數町村ニ一  
 戸長ヲ置キ一町ニ町用掛一村ニ村用掛ヲ設ケ及ヒ戸長ノ給料ヲ増  
 シテ以テ才幹アル人物ヲ戸長ニ登庸セントスルニ在リ然リ而モ區  
 町村ハ所謂地方自治ノ情態ヲ存スルヲ以テ今遽ニ之ヲ行政區域ニ  
 編入スルハ實ニ劇變タルヲ免レス然ルヲ若シ邦國ノ根本ハ府縣ナ  
 リ府縣ノ根本ハ町村ナリ而シテ地方施政ノ機關ハ町村ニ存ス故ニ  
 之ニ干涉セサル可ラスト云フトキハ町村ノ根本ハ即チ吾人ナレハ  
 吾人ノ家屋ノ修築如何ニモ干涉セサルヲ得サラン豈政府ノ能ク爲

スヲ得ルコトナランヤ原來一町村ハ猶ホ一己人ノコトシ故ニ各町  
 村ニ於テ水利土功等ノ或ハ少シク治マラサル有ルモ此ノ如キ嚴格  
 ノ法律ヲ布キテ人民ニ煩勞ヲ負ハシメサルヲ優レリトス區町村會  
 ノ如キモ府縣會ト異ナレハ其會法ハ頗ル簡易ナラシメタリ且其議  
 事ノ若シ法ニ背ク有ラハ縱ヒ明文ノ存セサルモ之ヲ措置スル方法  
 ナキニ非ス只其議事ニシテ治安ヲ害スル如キハ恐クハ絶無ノ事ナ  
 ラン選舉權被選舉權ノコトヲ掲タルモ二番ノ論セル如ク無用ト謂  
 フ可シ區町村費ノ一事モ舊ニ仍リ人民ノ協議ニ委スルヲ得タリト  
 ス或ル議官ハ此法律ノ存スル無クハ鎮守神祠祭禮ノ費用ヲモ公然  
 町村ニ徵スル等ノ弊害ヲ絶ツ能ハスト云ヘリ是レ實ニ弊害アリト  
 謂フ可キモ各町村自ラ之ヲ是認セハ亦敢テ妨ケ無ラン一朝ニシテ



舊例慣習ヲ變更スルハ頗ル戒慎ヲ加ヘサル可ラス且ヤ此案ニ載スル費目モ亦之ヲ掲サルヲ優レリトス但其土木費ノ怠納者ニ限り十年第七十九號布告ヲ以テ處分スルハ公平ナラストスルハ大ニ其理アリ故ニ是等ハ改正スルモ可ナリ若シ夫レ戸長ヲ官選ト爲シ及ヒ現行法第十三條第五項ヲ改正シテ戸長役場費ヲ町村ニ負擔セシムル等ハ總テ單行布告ヲ以テ之ヲ定メテ可ナリ之ヲ要スルニ町村ハ猶ホ一己人ノコトキ者ナルニ之ヲ行政區域ニ編入シ戸長ヲ陞セテ小郡長ノ如クナラシムルハ恐クハ今日ノ時勢人情ニ適セサル可シ且ヤ近來諸般増稅ノ爲メニ人民ノ疾苦ヲ訴フル時ナレハ凡ソ費用ノ負擔ヲ増ス如キハ務メテ之ヲ避ケサル可ラス因テ此三案ハ大體之ヲ贊成スル能ハサルナリ

○二十七番 渡邊清

此法案ノ旨趣ハ即今町村ヲ人民ノ自治ニ委セ其財

産保護法ノ完固ナラサルニ因リ逐次ニ之ヲ提轄セントスルニ在リ若シ單ニ本案ノミヲ觀ルトキハ或ハ劇變ニ過ルト爲シ或ハ慣例ヲ破ルト言フ可キモ是等ハ地方行政上ニ於テ實ニ已ム可ラサル者ト爲ス回顧スルニ大政維新以前ハ郡ニ郡奉行町村ニ庄屋若クハ名主アリ以テ其部内ノ人民ヲ統轄シ別ニ大庄屋ト稱シテ七八村ヲ統轄スル者アリ大政維新以後大小區ニ分ツニ及ヒ其統轄者ノ名義ヲ變更シ各府縣少異同ナキニ非サルモ概シテ大區ノ長ハ舊時ノ郡奉行ノ稍ヤ小ナル者小區ノ長ハ大庄屋ノ稍ヤ小ナル者ニ類シ又其下ニ戸長用掛等ヲ置キ以テ町村ヲ管轄セシメリ然ルニ十一年ノ改正以來ハ從前ノ郡奉行ニ代ル郡區長アルモ大庄屋ニ代ル者ナシ因テ戸



長ヲシテ之カ事務ヲモ執行セシム今夫レ人民ハ各町村ニ一戸長ヲ置クヲ便利ナリトスルモ政府ハ數町村ヲ合シテ一戸長ヲ置クヲ便利ナリトシ到底彼我共ニ満足ヲ得ルハ難カル可シ現時ハ戸長ノ人員甚タ多キヲ以テ其俸給ヲ厚クスル能ハス隨テ適當ノ人物ヲ得ル能ハス之ニ加フルニ近來代言人ナル者アリテ戸長輩多クハ之カ爲メニ籠絡セラル且此代言人ハ協議費等ノ事ニ關シ動モスレハ人民ヲ煽動シテ其出金ヲ怠ラシムル等ノ弊患アリ是カ爲メニ徵收ノ煩勞ヲ増シ徵收セル金額ハ以テ徵收ノ爲メニ消費セシ金額ニモ及ハサルコト往往ニ之レ有リ戸長良民共ニ困苦ス是レ畢竟法律ノ以テ其徵收方法ヲ規定セル者ナキニ由ル本官嘗テ地方ニ在職シテ其弊害ノ尤モ甚キヲ目撃ス今日ノ情勢ニシテ此法案ヲ發スルハ實ニ已

ムヲ得サルナリ但シ其施行ニ關スル行政上ノ順叙ハ之ヲ如何スル乎内閣委員若クハ主務官員ニ問フニ非サレハ取捨ヲ決ス可ラサル者亦多シ因テ本官ハ特ニ付託委員ヲ置キ其三案ヲ審査センコトヲ建議ス

退席 十八番 大給 恒 其土

○八番 井田 本案ノ精神ヲ考フルニ内閣委員ノ説明セル如ク從來町村ヲ自治ニ任放セルヨリ種種ノ弊害ヲ生シタルヲ以テ本案ハ之ヲ矯正セントスルニ外ナラサル可シ蓋シ町村ト雖モ幾許ノ檢束ヲ加フルニ非サレハ行政上ニ障礙ヲ生ス可キハ本官モ信シテ疑ハサル所ナリ抑モ自治ニ放任スルノ弊害アルハ實ニ然リ然レトモ本案ヲ以テ矯正セントスルニ至テハ本官之ニ同意スル能ハス戸長ヲ以テ



兼テ町村ノ議長ト爲ス如キハ殊ニ不可ナリ將來戸長ハ官選ト爲サ  
 ントシ且之ヲシテ第二議案第四條ニ明示セル權理ヲ與ヘ行政部内  
 ノ官吏タラシメントス然ルニ此官吏ニシテ町村會ノ議長ヲ兼ヌ其  
 町村人民ト協和セサルヤ知ル可シ故ニ町村會ノ議長ノ如キハ其地  
 方ノ人望ヲ有スル人ヲ舉ルヲ適當ト爲ス然ラサレハ協和ヲ得ル能  
 ハス是ニ懸テ之ヲ觀レハ町村人民ハ其町村戸長ノ選ニ當ルヲ辭ス  
 可ク然ラハ則チ之ヲ他町村ニ選マサルヲ得ス果シテ然ラハ其土地  
 ノ情況ニ通スル人物ヲ得ルハ恐クハ難カラシ原來戸長ハ務メテ老  
 實者ニ擇フ可キモ苟モ戸長ト爲レハ町村會ノ議長ヲ兼ヌ可キナレ  
 ハ其弊ヤ其人物ノ老實如何ヲ問ハス法律ノ一端ヲモ解知スル輕俊  
 生ヲ選フニ至ル可シ本官ハ他ノ條項ハ姑ラク論セス唯此一事ヲ以

テスルモ本案ニ同意スル能ハサルナリ

○議長 議論未タ盡キサルモ時已ニ午ヲ過ルヲ以テ午餐ノ爲メニ閉  
 場シ午後再ヒ開會ス可シ散會セヨ

午後零時二十分開場

午後第一時十五分開場

退席

三十八番

海江田信義

同

四十二番

長岡 護美

○議長 午前ノ續會ヲ開ク

○三十七番 津田 眞道

本官ハ本案ニ對シ言ハントス仍舊貫如之何何必改  
 作ト抑モ法律ヲ制スルハ實ニ已ムヲ得サルノ時會ニ於テス可ク然



ラサレハ舊貫ニ仍ルノ優レルニ如カス彼ノ陸海軍ヲ擴張スル爲メ  
 ○ニ税額ヲ増ス如キハ實ニ已ムヲ得サル者ナリ然リ而シテ其徵收ス  
 ル金額ハ常ニ豫算ニ達セス此他其目的ハ善美ナルモ實際十分ノ功  
 効ヲ見ル能ハサル者蓋シ少ナカラス本案ハ戸長ヲ官選ト爲シ町村  
 ヲ併合シテ行政ノ便宜ヲ謀ントス其目的ハ善美ナルモ退テ之ヲ考  
 フルニ今日ニシテ此ノ如キ法案ヲ發セハ行政ノ眼目タル國民ヲ富  
 マスノコトハ變シテ之ヲ貧ウスルノ惡結果ヲ見ルヤ疑ヒ無シ酒造  
 税ナリ賣藥印紙税ナリ皆是レ軍備ヲ擴張スル爲メニ萬已ムヲ得サ  
 ルノ施設ナルモ國民ノ富ヲ減スルヲ免レス前キニ本院ニ下付セル中  
 ○山道鐵道公債證書發行及ヒ日本銀行創立ノ各議案ノ如キ皆國民ヲ  
 富マスノ目的ニ出サル莫シ故ニ當時本官ハ喜テ之ヲ賛成セリ要ス

ルニ本案ハ惟タ法律ノ體裁ヲ修飾スルニ止マレハ猶ホ可ナレトモ  
 是レ前陳ノ如ク國民ヲ貧ウスルノ惡結果ヲ成ス可キ者トス故ニ本  
 官ハ寧口之ヲ廢棄シ以テ舊慣ニ仍ルヲ優レリトスルナリ

○三十番 柴原和

内閣委員ノ辨明セル所ヲ以テスレハ本案ハ必要ナル

者ノ如シ然レトモ一方ヨリ之ヲ考フレハ亦然ラサル有リ請フ試ミ  
 ニ之ヲ陳ン土木費ハ地方税中殊ニ巨額ヲ要スル者ナリ故ニ府縣會  
 ニ在テモ此項ニ關スル議論ハ常ニ其多分ニ居レリ抑モ今日各縣ノ  
 管轄石額ハ大抵一百萬石内外ニ在リ而シテ水利土木ノ關係スル處  
 所ハ概子管轄地内ノ一半ニ及ハス然リ而モ土木費ハ隣里相救フノ  
 旨趣ヲ以テ利害ノ關係セサル處所ニマテ一般ニ之ヲ賦課ス然ルヲ  
 若シ此法案ノ如ク土木費ノ科目ヲ區町村費中ニ明掲スルトキハ水



利ニ關係セサル地方ハ之ヲ以テ口實ト爲シ其費用ヲ出スヲ拒ミ遂ニ專ラ水利ニ關係スル地方ノミ負擔スルニ至ル可シ且夫レ今日ハ協議費ヲ以テ之ヲ補助スルモ本案ノ一タヒ發スル以上ハ協議支辨ノ風習ハ自然ニ消滅ニ歸セントス本案ノ地價割ノ科目モ贅物タルヲ免レス地方稅規則ニ地租幾分一以内ノ制限ヲ立テ而シテ今日ハ見ニ三分一以内ヲ徵收ス然ルニ既ニ制限ヲ立レハ其制限ニ超過セサルマテハ徵收セントス是レ蓋シ常情ナルノミ故ニ今日ト雖モ各地方皆其極點ニ達スルマテ地方稅ヲ徵收スルヤ疑ヒ無シ又其段別割ナル科目ハ本官其果シテ何物ニ原キタル者ナルヲ知ラス原來地價ハ段別ニ生スルニ非スヤ地價ニ課シ難キ者ヲ段別ニ課セントスル乎山林原野等ノ所有者ハ甚タ困苦ヲ感セン又其戸別割ナル科目

モ亦解ス可ラス輕輕ニ觀來レハ或ハ行ハル可キニ似タルモ地方稅ハ幾錢幾厘ト毎戸平等ニ賦課スル者ニ非ス地方議會ノ決議ニ照シ戸長役場其徵收ニ從事ス故ニ其金額ハ實際多ク富者ノ負擔ニ歸シ水飲百姓人力車夫ノ如キハ其負擔ヲ免ルルヲ常ト爲ス然ルヲ戸別割ノ方法ヲ設クルトキハ因テ以テ是等ノ貧民ニモ課稅セサルヲ得サラン此ノ如キハ本官ノ取ラサル所ナリ抑モ今日ノ區町村會ハ眞ニ茫漠ナル者ニシテ所謂協議會ト一般ナリトス然ルニ本案ノ如ク嚴格ナル規則ヲ立ルトキハ全ク府縣會ニ等ク而シテ其數ハ全國内ニ四五千ノ多キヲ見ル可シ僅僅五十以下ノ府縣會スラ時ニ中止解散ヲ命シ或ハ地方長官ト法律ノ見解ヲ異ニシ往往ニ參事院ノ裁定ヲ仰ク如キノ紛雜ヲ致ス有リ然ルヲ更ニ四五千ノ議會ヲ興スナラ



ハ實際許多ノ煩雜ヲ増スヤ必セリ又本案ノ議員ヲ選舉スル方法モ甚タ不可ナリ況ヤ戸長ニシテ六七町村ニ渉ル役場ノ豫算ヲ作ルハ爲ス能ハサルノコトナルヲヤ本案ノ非點ハ大略前陳ノ如シ本官ハ之ニ同意セン歟將タ同意セサラン歟甚タ其去就ニ困ムモ今先ツ不同意ノ一語ヲ呈セントスルナリ

○外三番白根 此第一案ヲ以テ現行地方稅規則第三條第十五項ニ改正ヲ加フルヲ要スル所以タル見今ノ戸長ハ其事務極メテ繁劇ナルニ其俸給甚タ菲薄ナルヲ以テ常ニ其人ヲ得ル能ハス故ニ其勤勞ニ報フニ足ル可キ俸給ヲ與ヘ以テ其人ヲ得ンカ爲メナリ夫レ公證徵兵等ノ各事項ニ關シ戸長ニシテ不正ノ措置ヲ爲ス者往往ニ之レ有ルハ畢竟其人ヲ得サルニ是レ由ル見ニ十五年ニハ三重一縣内ノ戸

長ニシテ刑ヲ受ケシ者十三名ヲ出セリ以テ其他ノ地方ヲ推知スルニ足ル戸長ノ其人ヲ得サル此ノ如シ胡ソ之ヲ矯正セサルヲ得ンヤ或ル議官ハ仍舊貫如之何何必改作ノ古語ヲ借テ本案ヲ駁セリ本員等亦素ヨリ舊貫ヲ尙ハサルニ非ス即チ本案モ其大體ハ舊貫ヲ存セシメ惟タ其小節ヲ改正スルニ在ルナリ今日七萬有餘ノ町村ニ三萬有餘ノ戸長役場ヲ設ク是レ平均二町村ニ一戸長ヲ置クノ比例ナリ今ヤ土地ノ便宜ニ應シ五六町村ニ一戸長ヲ置カントス蓋シ每町村若クハ數町村ニ一戸長ヲ置クハ郡區町村編制法第六條ノ明許スル所ナリ故ニ必スシモ舊貫ニ戻ルト謂フ可ラス又各府縣ノ戸長ノ俸給ハ其最多ナル八月俸貳拾圓最少ナル八年俸壹圓ニシテ是等ヲ平均スレハ月額三圓強ニ相當ス豈菲薄ナラスヤ若シ戸長ノ職ヲ充ス



ハ人民ノ義務ナリ宜ク俸給ヲ受ケスシテ其事ニ任スヘシト云ハハ  
 則チ已ム苟モ既ニ俸給ヲ與フル以上ハ斯ノ如ク菲薄ナル可ラス抑  
 モ官民ノ煩勞ヲ避ケ施政ノ便利ヲ謀ルトキハ毎町村ニ俸給優厚ナ  
 ル戸長ヲ置クハ素ヨリ望ム所ナレトモ是ノ如キハ其費用ノ支フ可  
 キニ非ス因テ管轄區域ヲ廣ウシ優厚ナル俸給ヲ與ヘテ以テ良戸長  
 ヲ得ントスルハ本案ノ希望スル所ナリ蓋シ戸長ハ郡區長ニ亞キ町  
 村ノ内治ニ關係ス猶ホ官民間ノ紐扣タルコトキ者ナリ故ニ今日本  
 案ヲ發スルモ將來戸長ヲシテ一切其町村ノ内治ニ關係セシメサル  
 ニ非ス元來町村ノ性質ヲ論スル動モスレハ輒チ自治ト云ヒ自由ト  
 云フモ要スルニ町村ノ内事ニハ政府一切ニ干涉ス可ラスト謂フニ  
 非サル可シ或ル議官ハ本案ヲ視テ遂ニ一己人ノ衣食住ニマテ干涉

スルニ至ル可シト云ヘリ今若シ人民ニ要シテ毎朝第六時ニハ必ス  
 寢床ヲ出テヨト令シ又之ヲ第七時ニ云云セヨト令スルハ爲ス可ラ  
 サル干涉ヲ爲ス者ト謂フ可キモ苟モ其事項ノ公共ノ利害ニ關係ス  
 ル者ナラハ縱使一己人ノ所爲ニ係ルモ政府ノ之ニ干涉スル何ノ不  
 可ナルコトカ之レ有ラン試ニ一例ヲ舉レハ一家屋ノ傾頽シテ將サ  
 ニ行人ニ危害ヲ加ヘントスルヤ警察官ハ其所有主ニ之カ修理ヲ命  
 スルモ不可ナル無キカ如シ況シテ町村ノ諸事ハ公共ノ利害ニ關係  
 セサル無キヲヤ又戸長職務取扱費ヲ町村費ニ加フルノ必要ナルハ  
 既ニ十二番ノ之ヲ論辨セル有リ然ルニ今日此費用ヲ地方稅ト協議  
 費トニ徵スルヲ以テ之ヲ極論スレハ一卓子一椅子ト雖モ地方稅ニ  
 屬スル者ト協議費ニ屬スル者トヲ區別シ以テ其所用ニ應セサル可



ラス又若シ此等ノ物品ヲ賣却セル場合ニ在テハ其價直ノ幾分ハ地方税ニ復シ幾分ヲ協議費ニ復セサル可ラス即チ是等ノ事項ヲ稟議セル地方モ蓋シ少シトセス因テ内務省ハ當初支出セシ金額ニ應シ之ヲ復ス可キヲ指令シタルモ是實ニ容易ノ業ニ非ス到底今ニシテ此法律ヲ改正セサレハ啻ニ費用ノ計算ニ混雜ヲ見ルノミナラス將來多少ノ紛議ヲ免レサラントス是レ此第十五項ヲ改正スルノ甚々緊要ナル所以ナリ抑モ町村聯合戸長増給ノ利害ニ關シテハ當初本員モ今日ノ反對論者ト同一ナル意見ヲ蓄ヘリ昨年各地方官ヲ内務省ニ招集セル日ニ於テ本員其旨趣ヲ陳ヘテ地方官ニ質問セシコト有リ然ルニ兵庫縣ノ如キ一昨年ヲ以テ町村聯合戸長増給等ノ諸事ヲ實行セシニ従前ヨリモ大ニ其費用ヲ減シタリ故ニ本案ヲ發スル

モ決シテ費用ヲ増スノ憂ヒ無シト答ヘタリ此兵庫縣ノ實驗說ニ據レハ即チ知ル本案ヲ發セバ假令大ニ費用ヲ減セサルモ亦必ス之ヲ増スノ憂ヒ無キコトヲ況シテ本案ノ旨趣タル若シ爲メニ費用ヲ増ストキハ強テ町村ノ分合ヲ爲サスシテ可ナルヲヤ現今戸長ノ人員ハ三萬餘ナレハ試ニ之ヲ其三分ノ一即チ一萬ト爲セバ従前ノ給料ノ一倍ヲ與フルモ尙ホ餘リ有リ但シ是等ノ事項ニ關シテハ内務省ヨリ應サニ其訓示ヲ發スヘキナリ又第二案ハ區町村會法ヲ改正セル者ニシテ現行法ノ缺典ヲ補フニ外ナラス現行法ハ實ニ十三年ノ制定ニ係リ當時町村ハ宜ク自治ニ任スヘシト爲シ此ノ如キ寬法ヲ制定セルヨリシテ今日大ニ弊害ヲ見ルニ至レリ夫レ自治トハ本ト放恣ヲ謂フニ非ス然ルニ現行法第二條ニ「區町村會ノ規則ハ其區



町村ノ便宜ニ從ヒ之ヲ取設ケ府知事縣令ノ裁定ヲ受クヘシト言  
 ヘル有リ因テ各區町村會ハ其區町村ノ便宜ヲ口ニ籍キ往往ニ府知  
 事縣令ノ訓令ヲ奉セス聞ク德島縣各東郡ノ町村聯合會ノ如キ縣令  
 ノ初メ本會ニ裁定ヲ與ヘシ事項ニ關シ後チ改更ヲ要スル有リテ其  
 會議ニ付セシニ本會ハ其改正案ヲ町村ノ便宜ニ非スト云ヒ以テ之  
 ヲ拒絕セリ郡長等百方說諭セシモ固執シテ服セス其言論ノ激昂ニ  
 涉レルヲ以テ中止解散ヲ命シ爾後更ニ開會セシメシニ依然其持說  
 ヲ改メス結局行政裁判ヲ仰クニ至レリ是レ此第二條ノ放任ニ失シ  
 今日ノ時勢ニ適合セサルニ由ル夫レ上古ハ人人淳樸素ヨリ法律ヲ  
 要セスト雖モ中古以降ニ在テハ實ニ之ヲ闕ク可ラス然リ而モ其法  
 律ニシテ若シ完備ナラサルヤ却テ之レ無キヲ優レリトス前陳ノ一

例以テ證ス可キナリ本案ノ第三條ハ頗ル緊要ノ者タリ現行法ニ仍  
 レハ議案ヲ發スルハ何人ナルヤヲ指示セス而シテ議案ハ元來事ヲ  
 執ル職員ノ當サニ發スヘキ所ノ者トス故ニ今戶長ノ之ヲ發スルコ  
 トヲ明示ス是レ他日ノ紛議ヲ防クナリ其第四條ハ惟々現行法ノ旨  
 趣ヲ明スニ過キス第五條ノ戶長ニ町村會ヲ中止スル權力ヲ與ヘシ  
 ハ頗ル其理由ノ在ル有リ現行法ニ於テハ此中止ノ權力ハ府知事縣  
 令郡區長ニ屬スルカ故ニ戶長若シ中止解散ヲ必要ナリト認ムレハ  
 郡區長ニ申白シテ其指揮ヲ請ハサル可ラス爲メニ若干ノ時日ヲ要  
 ス即チ各東郡ノ町村聯合會ニ中止解散ヲ命セシ時ハ既ニ其會ヲ閉  
 鎖セシ後ナリシト云フ其レ然ラン寒鄉僻村ニハ未タ電信ノ設ケ有  
 ラス其他通信モ亦便ナラス故ニ戶長ニ中止ノ權力ヲ與フルニ非サ



レハ往往實際ニ支障ス聯合會ノ制規タル現行法ニ於テハ之ヲ其端首ニ掲載シ且其法則モ精密ナラス而シテ本案ニ於テハ之ヲ精密ニシ以テ日後ノ紛紜ヲ豫防セリ此他尙ホ改正ヲ要スル條則アルモ這般ハ唯目下已ム可ヲサル者ノミニ止メ餘ハ之ヲ後日ノ改正ニ讓レリ又第三案區町村費規則ハ當初區町村會法ヲ制定セルト同時ニ必ス之ヲ制定セサル可ヲサリシニ其然ヲサリシハ當時地方ハ自治ニ任スノ旨趣ニ出タルナリ然レトモ區町村會法アリテ區町村費規則ナキハ猶ホ車ノ隻輪ヲ闕クカコトシ是レ這般本案ヲ制定セル所以ナリ但シ本案ノ設ケ無キモ從來區町村費ヲ徵收セサルニ非ス惟タ其本案ト異ナルハ本案ノ町村用掛給料旅費ヲ區町村費ト爲ル一事ニ止マルノミ蓋シ一町村ニ一戸長ヲ置クヲ廢シテ五六町村ニ一戸

長ヲ置クモ天然ノ部落ハ素ヨリ之ヲ破壊スルニ非ス故ニ戸長ノ下ニ用掛ナル者ヲ設ケントスルナリ此用掛ト雖モ今日始テ之ヲ設クルニ非ス只始メテ法律ニ其明文ヲ掲ルノミ抑モ區町村費ノ科目ハ各地方往往ニ異同ヲ存シ而シテ其數ヲ舉レハ幾ント一百ニ及フ本案ニ載スル科目ハ頗ル少ナキニ似タレトモ其大略ハ包括シテ漏サスト信ス但シ神社祭典費ヲ町村ニ賦課セシムル如キハ遂ニ同花紋ノ緋衣ノ價直ヲモ町村費ノ名義ヲ以テ之ヲ徵收スルニ至ントス故ニ今之ヲ除ケリ論者曰ク從來一町村内相ヒ親睦シ富者ハ貧者ノ爲メニ協議費ヲ負擔セル等ノ慣習ヲ存セシモ本案ヲ發スレハ以テ此美風ヲ破ル可シト然ルニ從前ト雖モ富者自ラ進ミテ貧者ノ爲メニ協議費ヲ負擔セルニ非ス況シテ今日ノ時勢人情ニ於テヲヤ故ニ是レ



本案ヲ發スルト否トニ關セサル可シ又或ル議官ハ地價割ノ科目ニ異論ヲ容レタルモ見ニ區町村會ニ於テ地價割ヲ議定スル者少カラス山梨縣岐阜縣ノ如キ是ナリ若シ區町村費中ニ此課目ヲ載ス可ラスト爲セハ區町村會ニ於テモ亦之ヲ議ス可ラサラン又其戶長役場ノ豫算ヲ立ル恐クハ難カル可シト云フモ本員ノ聞ク所ヲ以テスレハ從前ハ一村ノ農夫等歲首毎トニ莊官ノ家宅ニ會合シテ前年ニ係ル村費ノ計算ヲ了シ本年ニ係ル村費ノ豫算ヲ定ルヲ例ト爲セリト業已ニ區町村會ノ設ケ有リテ其會法第一條ニ區町村會ハ其區町村ノ公共ニ關スル事件及ヒ其經費ノ支出徵收方法ヲ議定スト言ヘルニ據レハ其區町村費ノ豫算ヲ立ルハ今日ニ見行スル所ナリ本案第九條ノ區町村費ノ怠納者ハ明治十年第七拾九號布告ニ據リ處分ス

ル所以ハ今日獨リ土木費ノ怠納者ノミ此布告ニ據リテ處分スルモ均シク區町村ニ課スル費用ナルニ彼此其處分法ヲ異ニスルノ支障ヲ見ル故ニ今者之ヲ改メ彼此同一處分ニ出テシメントス又本案ノ區戶長ヲシテ議長ヲ兼子シムルハ今日ニ在テハ之レ無ケレトモ戶長ハ官選ニ出テ將タ公選ニ出ルニ拘ラス町村ノ事務ヲ負擔シテ其平和ヲ保持ス可キ者ナレハ之ヲシテ議長ヲ兼子シメハ必ス將來ニ裨益スル有ル可シ今日此法制ヲ存セス故ニ動モスレハ輒チ行政官ト人民トノ間ニ軋轢ヲ生シ隨テ紛雜ヲ生スル間マ多シ仍ホ例ヲ德島縣名東郡ノ町村聯合會ニ假テ之ヲ明サシニ阿部某ハ其町村聯合會ノ議長ニシテ又德島縣會ノ議長ヲ兼又然ルニ彼レ縣會ニハ議事ヲ檢束スル法則アルモ區町村會ニハ檢束ノ法則ナキヲ奇貨トシ之



ニ頼テ頻リニ過激ノ言論ヲ吐キタリト云フ畢竟區町村會法ハ自治ノ精神ニ流レテ檢束スル無キニ是レ由ル真正ノ自治ハ檢束セサルノ謂ニ非ス故ニ今此改正ヲ要スルナリ番外一番ノ既ニ陳述セル如ク此各法案ハ各地方官ヲ招集シテ審議ヲ經タリシ者ナリ要スルニ既ニ區町村會法ヲ制定セル以上ハ其議案ハ何人ノ之ヲ發シ何人ノ之ヲ議スル乎若シ議ス可キ議案ヲ議セサルトキハ如何カ處分スル乎又苟モ一年間議決セサレハ區町村ノ公共事務ニ支障ヲ來サン故ニ是等ノ規律ヲ定ムルハ頗ル緊要ナルコトヲ知ラン各議官幸ニ此旨趣ヲ領シテ本案ニ賛成センコトヲ望ム

○四十五番 神田 孝平 内閣委員ノ詳細ナル説明ヲ聽キ本案ノ大旨ヲ領會ス其地方稅規則第三條第十五項ヲ改正スルハ甚タ善シ此ノ如クシ

テ始メテ地方稅ト協議費ト相ヒ混同セサラシムルヲ得ン區町村會法ヲ改正スル如キモ今日ノ實際ト大異ヲ見ルニ非サレハ敢テ劇變ト謂フ可ラス區町村費規則ヲ立ルモ亦可ナリ故ニ本官ハ大體此三案ニ同意スルモ聊カー一二質問セン區町村會法第五條ニ據レハ郡長ニモ會議中止ノ權力ヲ與ヘシニ第六條ニ郡長ノ文字ヲ掲ケサルハ何ソヤ第十條ノ區會議長ニハ區長ヲ以テ之ニ充テ町村會議長ハ戶長ヲ以テ之ニ充ルハ如何ナル理由ニ出タル乎第十一條ニ町村會ヲ言ヒ區會ヲ言ハサルハ何ソヤ又區町村費規則第九條ノ區町村費ノ怠納者ハ區長戶長ノ之ヲ管掌スルヲ言ヒ而シテ郡長ノ之ニ關係セサルハ何ソヤ

○番二 牧 朴 四十五番ノ質問ニ答ヘン區町村會法第五條ハ會議中



止ノコトヲ示セリ現行法ニ據レハ此中止ノ權力ヲ有スルハ府知事  
縣令郡區長ノミ故ニ今者之ヲ改メ區會ハ區長町村會ハ戶長ヲシテ  
中止ヲ命スルヲ得セシムルナリ但タ郡區長ハ戶長ノ上位ニ立ツ者  
ナレハ亦此權力ヲ有スル宜ク現行法ノ如クナルヘシ故ニ「郡區長  
戶長」ト言ヘリ第六條ハ會議中止ノコトヲ言ヘルニ非ス區長及ヒ  
戶長ノ主任事項ヲ示セルノミ是レ郡長ノ文字ヲ載セサル所以ナリ  
第十條ノ區會及ヒ町村會ノ議長ノコトタルヤ今日ノ町村會ハ如何  
ナル者ナル乎ト問ハハ昔日ノ村方相談ナリ當時一村ノ農夫等咸ナ  
莊屋ノ家宅ニ集會シ以テ村内ノ庶事ヲ商議セリ是レ所謂村方相談  
ナル者ニシテ今日ノ如ク會議ノ體裁ヲ具ヘタルニハ非サレトモ今  
日ノ戶長ハ即チ昔日ノ莊屋ナレハ前日ノ村方相談ニ莊屋ノ之カ上

席ヲ占メ村内ノ庶事ヲ商談シタルト同ク今後ハ戶長ヲシテ會場ノ  
上席ヲ占メシメ以テ村内ノ協和ヲ謀ルニ便セントス第十一條ニ  
區會ノコトヲ載セサルハ町村會ハ奥羽九州等猶ホ未タ開設セサル  
ノ地方多シトス而シテ是等ハ強テ開設セシム可キニ非ス然ルニ區  
會ノ如キハ今日各地方皆已ニ之ヲ開設セサル無キニ由ル又區町村  
費規則ノ第九條ニ郡長ノ文字ヲ載セサルハ區内ノ事務ハ區長ノ之  
ヲ處理スルト同シク町村内ノ事務ハ戶長ノ之ヲ處理スルヲ以テ郡  
長ハ直接ノ關係ヲ有セサレハナリ

退席

三番

東久世通禧

○二番 渡邊 洪基 本案ノ要旨ハ戶長ノ給料ノ菲薄ニシテ其勤勞ニ報フル  
ニ足ラス隨テ其人ヲ得ルニ難ク且其事務ノ擧ラサルニ因リ之カ改



良ヲ圖ルニ在ル可シ番外三番ノ説ク如ク壹圓ノ年俸以テ其勤勞ニ  
 報フルニ足ラサルヤ明白ナリ然レトモ今日ノ戸長ハ公選ニ係リ即  
 チ戸長ト爲ルハ其人ノ本町本村ニ對スル義務ト爲ス故ニ俸給以テ  
 勤勞ニ報フルニ足ラサルモ人仍ホ其職ニ居ルヤ少ナカラス然ルヲ  
 今若シ戸長ヲ官選ト爲シ純然官吏タラシメンニハ一般ノ官吏ト同  
 シク其勤勞ニ報フルニ足ル俸給ヲ與ヘサル可ラス即チ判任ノ最下  
 等ナル十七等官ト同一ノ俸給ト爲スモ猶ホ月俸拾貳圓ヲ要ス然ラ  
 ハ則チ三萬人ノ戸長ヲ一萬五千人ニ減スルモ一月壹百八拾萬圓ヲ  
 要セン此他ニ町村用掛等ノ給料ヲ要スレハ之ヲ從前ニ比セハ費用  
 ヲ増スニ非スシテ何ソヤ聞ク英國ノ如キハ戸長ヲ公選ト爲シ自ラ  
 其任ヲ辭スレハ退職料ヲ供出セシムル制規ナリト我カ今日ノ戸長

モ稍ヤ之ニ類スル者トス然ルヲ若シ之ヲ官選ト爲セハ隨テ其比準  
 ヲ官吏ニ取ラサル可ラス此一事ノミヲ以テスルモ從前ヨリ費用ヲ  
 増スハ明白ナリ況シテ戸長ヲ小郡長ノ如クスルモ用掛及ヒ備員ヲ  
 要スルハ猶ホ今日ノコトク而シテ其費用ハ却テ多キヲ加フ可キヲ  
 ヤ内閣委員ハ曰ク此第十五項ヲ改正セサレハ地方稅ト協議費トヲ  
 分賦スルニ難シト然レトモ嘗テ聞ク獨乙聯邦亞米利加聯邦ノ如キ  
 戸長ニシテ州長ノ職務ヲ攝行スルコト有ルモ其費用ノ計算等毫モ  
 支障ヲ見スト我邦ノ戸長ニシテ地方稅ト協議費トヲ分賦スル何ノ  
 難キコトカ之レ有ン又英佛ノ如ク公選ノ戸長ナレハ民會ノ議長ト  
 爲スモ可ナレトモ官選ノ戸長ヲ以テ民會ノ議長ト爲スハ當ヲ得ス  
 看ヨ我カ府知事縣令ハ官選ナリ故ニ之ヲ以テ府縣會ノ議長ト爲サ



サルニ非スヤ但シ常置委員會ニ在テハ府知事縣令ノ議長席ニ就クモ是レ其商議會ノ體裁ヲ具スルニ由ル然ルモ尙ホ府縣會規則第四十一條ニ「諮問會ハ府知事縣令ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ」トノ明文ヲ掲ケリ區町村會ニ於ルモ何爲レソ官選ノ區長若クハ戶長ヲシテ議長席ニ就カシム可ケンヤ舊幕府ノ時代ニ莊屋ノ農夫ヲ其家宅ニ招集シテ村内ノ庶事ヲ商議シタル如キ以テ引例ト爲スニ足ラス今日ハ既ニ議事規則ノ設ケ有リ戶長モ今將サニ官選ト爲スノ時機ニ會ス決シテ昔日ト同視ス可キニ非ス然ルニ内閣委員ノ説ク所ヲ聞クニ嘗テ德島縣ニ於テ偶マ混雜ヲ生シタルヲ以テ此法律ヲ改正セントスル者ニ似タリ此ノ如キハ本官ノ甘服スル能ハサル所ナリ今日ノ時勢ハ法律ヲ緊要ト爲ス

ト雖モ亦其適度ナル者有レハ其宜キヲ制セサル可ラス又區町村ノ費目モ現行區町村會法第一條ノ在ル有レハ本案ヲ設ケサルモ區町村會ハ適宜ニ之ヲ定ム可キノミ

退席

二十八番

箕作 麟祥

○番一安場保和

本官ハ前キニ本案ノ要點ヲ擧テ即今之ヲ發スルノ已

ムヲ得サルコトヲ開陳セリ然レトモ訥辨ニシテ其意ヲ盡ササリシカ本案ヲ非視スル議官往往ニ之レ有リ因テ重複ヲ厭ハス今又本案ノ切要ナル所以ヲ開陳セン或ル議官ハ行政ノ事務ハ法律ノミヲ賴ム可ラス故ニ本案ヲ制スルヲ須ヒスト云ヘリ其レ然リ本案ヲ制スル旨趣モ素ヨリ法律ノミヲ以テ行政ノ事務ヲ整理セントスルニ非ス即チ行政ノ一具ト爲スノミ抑モ舊貫ニ仍ルノ是ナルハ言フヲ俟



タサレトモ社會ハ活動スル者ナレハ之ニ應シテ法律ヲ改良スルハ  
 又實ニ已ム可ラサルナリ若シ一ニ舊貫ヲ株守セハ豈能ク社會ノ安  
 寧ヲ保護スルコトヲ得ンヤ又或ル議官ハ地方ノ自治ハ舊幕府以來  
 ノ慣習ナリ然ルヲ今遽ニ其慣習ヲ廢シ區町村ヲ驅テ行政區域内ニ  
 入レントスルハ甚タ取ラサル所ナリト云ヘリ然リ而モ地方自治ハ  
 決シテ舊貫ニ成レルニ在ラス是レ明治十一二年ノ交ニ權輿シ西洋  
 ノ新說ニ惑フテ却テ我カ舊貫ニ背馳セル者ナリ故ニ今之ヲ改ムル  
 ハ寧ロ舊貫ニ復スト謂フ可キノミ是等ハ姑ク置キ到底本案ハ人心  
 ノ赴ク所ニ隨ヒ其宜キヲ制スルニ在ルナリ又或ル議官ハ戶長ノ俸  
 給ヲ厚ウシ新ニ町村書記ノ名稱ヲ作ル如クンハ費用ノ増加セサラ  
 ンヲ欲スルモ得ンヤト云ヘリ其レ然リ今日ハ事業ノ興起ス可キ者

甚タ多ク而シテ人民ハ困窮セリ因テ主務省モ大ニ此ニ罪慮シ嘗テ  
 其増減如何ヲ各地方官ニ諮問セシニ之ニ答フルニ嘗ニ今日ヨリ増  
 加セサルノミナラス却テ減少ス可キヲ以テセリ是レ臆說ニ出タル  
 ニ非ス的ニ實例ノ在ル有ルナリ故ニ本官等ハ本案ヲ發スルモ其費  
 用ハ今日ニ比シテ大ニ減少スルヲ見サルモ亦敢テ増加スル無キヲ  
 信ス又或ル議官ハ不急ノ要用ヲ節シテ人民ヲ富裕ニ導カサル可ラ  
 スト云ヘリ抑モ町村公共ノ利益ハ何ニ在ル乎ト問ハハ各自ノ意思  
 ヲ集メテ公共ノ事件ヲ整理スルニ在リ且此區町村費用モ今日新ニ  
 此ヲ與スニ在ラス是レ現行ノ區町村會法ニ據テ實行セシ者ヲ明示  
 スルニ過キス蓋シ明治十一年其會法ヲ制定セル時ニ於テ之ニ及ハ  
 サリシハ草卒ニ全國ヲ通施スル畫一ノ法則ヲ立ルノ不可ナルカ爲



メナリ然ラハ則チ今日此法案ヲ發スルハ前日ニ豫期スル所ト謂フ  
 モ過言ニ非サル可シ之ヲ要スルニ本案ハ現行法ノ完備ナラサル爲  
 メニ之ヲ補全セントスルニ外ナラス只今番外三番ノ頻リニ德島縣  
 ノ事例ヲ舉ケテ本案ノ必要ナルヲ説ケルハ偶マ德島縣ニ此事アリ  
 タル爲メニ全國人民ノ奉戴スヘキ法律ヲ改正セントスル者ノ如ク  
 思量スル議官アルニ似タリ思フニ番外三番ハ惟タ其議論ノ確實ナ  
 ルヲ證スル爲メニ偶然ニ之ヲ舉タルノミ本案ヲ頒布スル所以ハ決  
 シテ此ニ止マラス蓋シ本案ハ起草以來再三調査ヲ經タリト雖モ尙  
 ホ其瑕瑾ナキヲ保セス故ニ修正ヲ加フルハ不可ナル無シ否ナ好修  
 正ヲ加フルハ却テ本官ノ企望スル所ナリ然ルヲ若シ本案ヲ全廢ニ  
 付セハ恐クハ町村ノ理事ニ障碍セン要スルニ是レ全國ノ盛衰ニ關

係ヲ及ホス者ナレハ各位此旨趣ヲ領シテ本案ニ賛成センコトヲ望  
 ム

退席 三十番 柴原 和

○四十番 三補安 第四百二十八號以下三議案ノ利害得失ハ内閣委員並  
 ニ各議官ノ論辨ニ因テ幾ント餘蘊ヲ留メス本官ノ意見ヲ以テスレ  
 ハ第一案ハ大ニ之ヲ是認シ第二案ハ内閣ト所見ヲ異ニシ第三案ハ  
 甚タ之ヲ非認ス請フ聊カ之ヲ辨セン本官ノ大ニ第一案ヲ是認スル  
 ハ其故アリ只今番外一番モ略陳セル如ク昔日ニ在テハ地方ハ決シ  
 テ自治ニ委セルニ非ス惟タ自治ノ看ヲ爲セルノミ當時ハ今日ノ如  
 キ精密ノ法律ヲ設クル無シ故ニ町村内ノ公共事件ハ協議ニ頼テ之  
 ヲ施行セリ然レトモ是皆官府ノ干涉ニ成リテ地方ノ自治ニ出テサ



ルハ歴歴トシテ徴ス可シ抑モ地方自治トハ維新以後區長ノ給料ヲ今日ノ地方税即チ當時ノ民費ヨリ支辨スル者ト爲セルニ濫觴ス然ルニ今日戸長ノ給料甚々薄ク且之ヲ地方税ヨリ支辨スルヲ以テ戸長ハ人民ノ傭吏ニ等シキ看ヲ呈シ動モスレハ輒チ富農豪商ノ鼻息ヲ仰クニ至ラシム故ニ今日ハ特ニ地方自治ノ看ヲ爲スモ地方自治ナル者ハ實ニ我カ日本ノ國體ニ背戾ス且夫レ郡區長ノ給料ハ十三年ニハ地方税ヨリ支辨セシモ十四年以來改メテ國税ヨリ支辨スル者ト爲セルハ各位ノ知悉スル所ニシテ本案ハ即チ戸長ノ給料ヲ増シ公選ヲ改メテ官選ト爲シ以テ適任者ヲ登庸シ戸長役場書記ノ給料旅費ヲ地方税ヨリ支辨セシメントスルニ在リ是レ本官ノ最モ渴望スル所ニ出タリ思フニ此改正ハ將來良戸長ヲ得テ町村ノ整理其

他ニ鴻益ヲ見ルノ利便ヲ收メン是レ本官ノ本案ヲ是認スル所以ナリ但其戸長ノ給料ヲ地方税ヨリ支辨スル者ト爲スハ太タ不可ナリ看ヨ郡區長ノ給料ハ十四年以來國税ヨリ支辨スルニ今日何ヲ苦ミテ戸長ノ給料モ國税ヨリ支辨スル者ト爲ササル耶是レ恐クハ費用ノ一點ニ拘ハレルナル可キモ是カ爲メニ不具不完ノ法律ヲ制スルハ其理由ヲ知ラス故ヲ以テ本官ハ上ハ太政大臣ヨリ下ハ戸長マテ其給料ハ悉ク國税ヨリ支辨スル者ト爲サント欲ス若シ夫レ戸長役場書記ノ給料ニ至テハ畢竟裁判費用ト同シク手数料ニ類スル者ナレハ是等ハ地方税ヨリ支辨セシムルヲ適當ナリトス是ヨリ又第二案ニ對スル意見ヲ陳セン内閣委員ノ辨明ヲ聽クニ本案ハ規則ヲ完備ニシ會議法ヲ正確ニセントスルニ在リ要スルニ現行法ハ町村會



ヲ提轄スルニ足ラス因テ改正ヲ加ヘント云フニ過キス然ルニ本案ハ區町村ノ現況ニ對スレハ甚タ超軼ニ失セリ彼ノ府縣會ノ如キ當初其規則ノ完備ナラサルト權限ヲ與フルノ廣大ナルトノ爲メニ或ル縣會ハ縣令ヲ改選センコトニ論及セリト聞ク故ニ數次其規則ヲ改正シテ權限ヲ縮少シ以テ其改良ヲ謀レリ然ルニ一旦擴張セル權限ヲ縮少スルトキハ人情其固有權ヲ奪ハルル如キ看ヲ爲ス故ニ十箇ノ權理ヲ與ヘントセハ先ツ三箇ヲ與ヘ次ニ五箇次ニ七箇ト漸次ニ之ヲ與フルヲ得タリトス然ルヲ揣テ西洋諸國ノ地方議會ニ模擬シテ初ヨリ大權ヲ與ヘタルヨリ遂ニ往往弊害ヲ見ルニ至レルナリ然ラハ則チ其弊害タル人民ノ罪ニ在ラス寧ロ官府ノ致ス所ト謂フモ誣タリトセス夫レ議場開閉ノ自由ナル地方廳下ノ府縣會スラ尙

ホ然ク檢束ヲ要ス况シテ良戸長ヲ得ル目的ノ爲メニ多ク新戸長ヲ舉ルニ因リ議事ニ慣熟セサル者モ亦少カラサル可キヲヤ此場合ニ於テ此權力ヲ區町村會ニ付與スルハ本官甚タ其利害如何ヲ危フムナリ且ヤ十三年ノ區町村會法ハ茫漠トシテ緻密ナラス故ニ弊害モ少ナク費用モ亦隨テ多カラス然ルニ府縣會規則ト一般ニ嚴格ナル法制ヲ立レハ遂ニ爲メニ椅子ニ倚リ高卓ニ對スルニ非サレハ事ヲ議スル能ハスト云フニ至ラン從來町村會議ハ座次ヲ論セス座法ヲ正サス吹煙ヲ禁セス吃茶ヲ制セスシテ惟タ其町村ノ實益ヲ是レ謀レリ然ルヲ府縣會ト同シク堂堂トシテ議事ヲ開クトキハ三日ヲ要スル議事モ延キテ五日ニ及ヒ五日ヲ要スルハ十日ニ及フ可シ加之區町村會ノ議員ニハ嚴然規則ニ據テ議論スル能ハサル者亦多カラ



ン然レハ則チ將來老實ナル田舎人ハ會議ニ列セス實際ニ疎キ輕俊者ノミ多ク之ニ與カルニ至ラントス又第三案ハ第二案ニ起因シテ其頒付ヲ要スルナル可キモ若シ之ヲ頒付スルトキハ恐クハ各議官ノ云ヘル如キ障礙ヲ來スヲ免レサラン内閣委員ハ現行法ニ據レハ協議費ノ怠納者ニ公賣處分ヲ施ス能ハスト云ヘリ然ルニ其怠納者ハ之カ爲メ其名譽ヲ損スルハ言フヲ俟タス又多ク器物ヲ備ヘントセハ爲メニ一層ノ多費ヲ要ス可シ内閣委員ハ僅僅數縣ノ例ヲ援テ其然ラサルヲ證スレトモ本官決シテ承服スル能ハス見ニ區町村會法ヲ改正スルノミヲ以テシテモ尙ホ幾分カ費用ノ増加ヲ要ス更ニ本案ヲ施行スレハ益其増加ヲ致スヤ必セリ今日町村内ノ富者ハ貧者ノ爲メニ多分ノ費用ヲ負擔スル慣習ヲ存ス然ルヲ若シ法律ヲ以

テ各人ノ負擔ヲ定メハ假令ヒ些少ノ金額ト雖モ他人ニ代リテ負擔セサルハ蓋シ人情ノ免レサル所ナリ是ヲ以テ本案ヲ發セハ將來公賣處分ヲ受ル者續續踵ヲ接セントス今夫レ本案ノ如ク嚴格ナル規則ヲ作り之ニ據テ會議ヲ爲サシメハ會場ニ立テ口ヲ開ク者ハ概チ書生輩ノミ故ニ其決議ハ毎ニ多クハ實際ニ適セサラン看ヨ區町村會ハ未タ開設スルニ及ハサル地方スヲ少ナカラサルヲ宜ク其會則ハ務メテ之ヲ簡易ニシ他日漸次ニ緻密ニ進ムルヲ可トス以上本官ノ三案ニ對スル意見ノ大略ナリ尙ホ論ス可キ無キニ非サレトモ其言ノ長キニ涉ルヲ以テ今之ヲ此ニ止ム

退席

十一番

楠本 正隆

○番一安場保和

只今ノ四十番ノ論辨ハ今日ノ形勢此ノ如ク地方ノ景



○況此ノ如シト推考スルニ出タル者トス蓋シ町村會ハ箕踞團欒シテ事ヲ議スルモ妨ケス且ツ老實ノ議員多カラシコトハ内閣ニ於テモ素ヨリ望ム所ナリ然ルニ今者其會法ニ嚴肅ヲ加ヘントスルハ現行區町村會法ノ放任ニ過キタルヲ改正スルニ外ナラス現行法ハ放任ニ過クルカ故ニ輕躁浮薄ノ徒因テ以テ我意ヲ逞ウシ老實者爲メニ會場ニ列スルヲ嫌フニ至ル例ヘハ町村會ニ中止解散ヲ命スル如キ今日ハ戸長ノ權ニ屬セス是ヲ以テ縱令町村會ニシテ地方ノ施政ニ障碍ヲ致ス可キ議論ヲ爲ス者アルモ郡長ニ稟議セルニ非サレハ則チ戸長復タ之ヲ奈何トモスル能ハス而シテ臨時郡長ニ稟議シ其命ヲ俟テ事ヲ處スルヤ多クハ時機ヲ失シ中止ヲ命スルモ其効功ヲ見ル能ハス故ヲ以テ這般ハ嘗テ判任官タリ若クハ見ニ判任官タル人

○ヲ擇ミテ戸長ト爲シ之ニ此中止解散ノ權ヲ與ヘントス畢竟此改正ハ今日ニ在テ實ニ已ムヲ得サルナリ又凡ソ區町村ノ公共ニ關スル事項ハ決シテ土木ノミニ限ラス教育ナリ衛生ナリ皆公共ニ關セサル莫シ然レハ則チ緩急輕重ノ差別アルモ共ニ區町村會ノ議決ニ付セサル可ラス四十番ハ本案ヲ發セハ德義上ニ於テ細民ハ爲メニ多ク費用ヲ負擔スル者ヲ絶ツ可シト云ヘリ然ルモ今日此法律ナキカ爲メ德義上ニ於テ細民ヲ補助スル有ルノ利ト土木費ノ外ハ容易ニ公共ノ費用ヲ納ムル無キノ害トヲ比較スレハ利ハ三ニシテ害ハ七ニ居レリ況シテ縱令ヒ此法律ヲ布クモ眞ニ細民ノ爲メニ費用ヲ負擔スル德義者ハ之ヲ爲スモ自由ニシテ決シテ此法律ノ有無ニ關セサルヲヤ故ニ此等ヲ顧慮セス本案ニ同意センコトヲ切望ス



○四十番 三浦安

番外一番ノ論旨ハ本官ニ説諭ヲ下セル者ノ如シ抑モ本官ノ第一案ヲ是認シ隨テ戸長ノ給料ヲ國庫ヨリ支辨スルヲ望ムハ標準ヲ郡區長ニ取ルナリ又本官ノ府縣會ヲ引キテ云云セシハ本案ノ區町村會ニ權限ヲ付與スル重大ニ失セリト見ルニ由レリ又今日ノ町村公共ノ費用タル土木費ノ外ハ協議費ノ性質ニ係ルヲ以テ其徵收方法モ亦隨テ寬裕ナレトモ本案ニ據レハ怠納者ハ都テ公賣處分ニ付セララルルニ至ル寬猛其地ヲ易フルノ激變ト謂フ可シ番外一番ノ聽ク所ト本官ノ述ル所トハ頗ル逕庭アルニ似タルヲ以テ聊カ之ヲ辨白ス

退席

三十二番

鷺尾 隆聚

○番二番 枚村外

費用増減ノ點ニ關シテ一辨センニ番議官等ハ本案ヲ

發セハ費用ヲ増加スルヲ免レスト云ヘリ然レトモ本員等ハ各地方官ノ報告ヲ觀テ其然ラサルヲ知ル其報告ニ據ルニ現時ニ於ケル戸長ノ給料旅費及ヒ附屬備吏等ノ給料ヲ合セテ貳百四拾萬圓ト爲ス前日試ニ電信ヲ以テ戸長ノ月俸額ヲ各府縣ニ尋問セシニ新潟縣ハ三十五圓兵庫縣ハ三十圓三重縣ハ貳十五圓長野縣ハ拾圓群馬縣ハ八圓ナリ其他未タ回答ヲ爲サル府縣アルモ要スルニ全國ヲ平均スレハ其多キハ拾圓以上少キハ五六圓ナリ又今日全國内地方稅ヲ以テ支辨スル戸長職務取扱費及ヒ町村協議費ヲ以テ支辨スル戸長役場費ヲ合算スレハ四百六拾八萬圓ト爲ル然ルニ此法案ヲ以テ町村ヲ聯合スル等ニ於テ凡ソ其費用ノ三分ノ一ヲ減ス可シトハ是レ各地方官ノ説ク所ナリ假令其説ク所ノ如クナラサルモ從前ニ比スレ



○ハ費用ヲ増サル可キハ疑ヲ容レス況シテ本案ノ旨趣タル若シ町村ヲ聯合スル等ノ爲メニ費用ヲ増スヲ免レサレハ必スシモ強テ之ヲ施行セシメサルニ在ルヲヤ請フ此點ニ關シテハ心ヲ安ンシテ議定セシコトヲ

○議長 本案ニ係ル質疑及ヒ其大體ニ對スル論辨ハ既ニ盡キタリト認ム因テ二十七番ノ全部付託調査委員ヲ設クル建議ノ決ヲ取ン

○四十番 三浦安 本會ニ在テハ三案ヲ聯帶シテ意見ヲ述ルヲ得ルモ調査委員ハ每案各別ニ選定セサル可ヲサル歟

○議長 調査委員ヲ選定スルニモ三案ヲ聯帶スルニ非サレハ恐クハ支障ヲ見ン故ニ二十七番ノ建議ハ三案共ニ同一調査委員ニ付託スル意旨ナリト認ム二十七番ニ問フ果シテ然ルヤ

○二十七番 渡邊清 三案ヲ聯帶スルニ非サレハ調査ニ困マン因テ三案

共ニ同一委員ニ付託センコトヲ希望ス

○議長 二十七番ノ建議ニ同意スル者ハ起立セヨ  
起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ二十七番ノ建議ハ消滅ス此ニ第一讀會ヲ畢ル第二讀會ノ期日ハ他日別ニ報告ス可シ本日ハ散會セヨ

午後第四時三十分閉場







十一番	楠本 正隆
十三番	大久保一翁
十四番	田邊 太一
十七番	福原 實
十八番	大給 恒
十九番	河田 景與
二十番	林 友幸
二十三番	橋口 兼三
二十四番	大鳥 圭介
二十五番	西村 貞陽
二十七番	渡邊 清

二十八番	箕作 麟祥
三十番	柴原 和
三十一番	上杉 茂憲
三十二番	鷺尾 隆聚
三十三番	關口 隆吉
三十五番	鍋島 直彬
三十六番	細川潤次郎
三十七番	津田 眞道
四十番	三浦 安
四十一番	西 周
四十二番	長岡 護美



四十四番 岩下 方平

内閣委員 番外一番 參事院議官安場 保和

同 番外二番 參事院議官補牧 朴真

同 番外三番 參事院員外議官補白根 專一

午前第十時三十五分開場

○議長 第四百二十八號以下三議案ノ第二讀會ヲ開ク

○三十三番 關口 隆吉 本官ハ建議スル有ラントス本官故アリテ第一讀會

ニ參場セサルヲ以テ其議場ノ景況如何ヲ知ラサレトモ熟考スルニ  
此三議案ハ共ニ重大ノ關係ヲ有セサル莫ク且其事項モ相牽連シテ  
分離ス可キニ非ス故ニ之カ可否ヲ斷定スルモ亦頗ル易カラス今日  
地方郡村ハ五六年前ト大ニ其景況ヲ異ニシ地方施政亦其旨趣ヲ異

ニス前日本官ノ地方ヲ巡回スルヤ區町村會及ヒ區町村費ノ現狀ヲ  
モ調査セシニ區町村會ニハ種種ノ弊害ヲ生シ地方行政官モ殆ント  
其措置ニ困シミ人民モ爲メニ不幸ヲ被ル少ナカラス本官ノ所見ヲ  
以テスレハ若シ能ク區町村會ヲ廢スルヲ得ハ斷然之ヲ廢スルヲ可  
トス然レトモ今日恐クハ遽カニ此斷行ノ處分ヲ施スヲ得サル可シ  
然ラハ則チ其會法ヲ改正スルノ外ニ他策ナカラシテ試ミニ區町村會  
ノ實況ヲ舉ンニ甲縣ニ在テハ各町村ニ之ヲ設ルモ乙縣ニ在テハ然  
ラス又其會則ノ如キモ或ハ簡單ナル有リ或ハ繁雜ナル有リ又別ニ  
聯合區町村會ノ設ケ有リ而シテ區町村ハ各其利害ニ關シテ自ラ其  
會則ヲ定メ以テ府知事縣令ノ裁定ヲ受ク故ニ其會則モ頗ル煩冗ニ  
シテ甲乙相異ナルヲ致セリ是ヲ以テ其可否ヲ裁定スルモ容易ナラ



ス而シテ其實際ノ結果ヲ觀レハ往往唯事ニ支障ヲ受ル有ルノミ又其區町村費ノ事ニ於ルモ各位ノ知ル如ク未タ法律ノ之ヲ定ムル有ラス故ニ區町村各其費目ヲ異ニシ區町村會ニ於テ自ラ定メタル事項モ之ヲ本區町村ニ實行スル能ハサル有リ畢竟是等ノ障礙ヲ來セルハ區町村ノ自由ニ放任セルニ職由ス蓋シ各區町村各其慣習便宜ヲ異ニスルニ因リ畫一ノ法律ヲ以テ之ニ施行スル能ハサル可キモ其大體ハ必ス畫一ニ出テシメサル可ラス要スルニ今日ノ放任ニ委スルハ素ヨリ得策ニ非サレトモ嚴法ヲ設ケテ之ヲ檢束スルモ亦弊害ヲ起サントス故ヲ以テ緩急其宜キヲ得セシメサル可ラス又區町村費規則ヲ制定スル利害ノ如何ニ關シテハ十二年制定戸長職務取扱規則及ヒ其他各種書類ヲ稽查スルコトヲ要ス地方稅規則第三條

第十五項ノ改正案ニハ本官素ヨリ異論ヲ蓄ヘス然レトモ他案ト牽連セル以上ハ獨リ此一案ノミヲ議決スル能ハス因テ本官ハ特ニ全部付託調査委員ヲ置キテ此三案ノ調査ヲ委シ其報告ヲ俟テ更ニ其議ヲ開キ以テ原案ノ取舍存廢ヲ決センコトヲ望ム

○議長 只今三十三番ハ全部付託調査委員ヲ置キテ此三案ヲ付託シ其調査報告ヲ俟テ第二讀會ヲ開ク可キヲ建議ス然ルニ本案ノ第二讀會ヲ開クコトハ本席既ニ之ヲ演告シタリ原來第一讀會ニ於テ三案ヲ聯帶シテ其大體ノ可否ヲ陳述スルニ因リ本日モ三案ヲ聯帶シテ議題ニ付セントス故ニ其朗讀ヲ待チ而ル後ニ贊成說ナリ廢棄說ナリ調査委員選定建議ナリ各位ノ所見ニ任セテ之ヲ發スルコトヲ得ヘキモ三十三番ノ建議ハ前後ノ時機ヲ誤レルニ似タリ今先ツ第



四百二十八號議案ヲ朗讀セシム

書記官 森山茂 朗讀

布告案

明治十三年<sup>四</sup>月第拾六號布告地方稅規則第三條第十五項左ノ通改正  
ス

一戸長及戸長役場書記給料旅費

右奉 勅旨布告候事

○二番<sup>渡邊洪基</sup> 本官ハ第一讀會ニ於テ本案ニ對スル意見ノ大略ヲ陳セ  
リ原來本案ハ頗ル困難ノ法案ニシテ恐クハ政府モ已ムヲ得サルニ  
發スル者ナル可シ本官ハ大體ニ於テハ之ヲ非認スルモ眼ヲ轉シテ  
區町村ノ現状及ヒ戸長ノ職務ノ實況ヲ見レハ其改正ヲ要スル者實

ニ少ナカラス蓋シ各地方區町村今日ノ通弊ハ三十三番ノ陳述セル  
有リ本官モ亦嘗テ某某地方ヲ巡廻シテ親シク聞見セル所アリ故ニ  
本官モ全部付託調査委員ヲ置ントスル三十三番ノ建議ヲ賛成ス因  
テ本案ノ存廢ニ關スル意見ニ至テハ今復タ此ニ之ヲ論セス

○二十七番<sup>渡邊清</sup> 三十三番ノ建議ヲ賛成ス思フニ地方ノ實況ヲ目撃  
セサル論者ハ或ハ本案ヲ無用視スル有ル可シト雖モ本官等昨年數  
縣ヲ巡廻シ地方ノ實況ヲ視察セルニ因リ今ヤ政府ノ此法案ヲ發ス  
ルハ實ニ已ムヲ得サルニ出ツルヲ知ルナリ且聞ク府縣廳ノ今日ノ  
憂患ハ全ク町村ノ施政ニ在リト謂フモ誣言ニ非スト蓋シ今日ハ白  
面書生ノ言論世間ニ流行シ町村會ノ議事ノ如キモ實際ノ利害ヲ後  
チニシテ徒ラニ理論ヲ是レカム此弊風ヤ實ニ熾ンナリ例ヘハ二三



十日ヲ經ルモ議事仍ホ結了セス隨テ許多ノ費用ヲ要シ其金額ハ悉皆町村人民ノ負擔ニ歸ス畢竟是レ徒ニ言論ノ雌雄ヲ爭フ結果ニ外ナラス實ニ長大息ヲ爲ス可キナリ然レハ則チ町村會ヲ廢セン乎一旦既ニ成立セシ者ナルニ俄ニ之ヲ廢スルハ急變ニ失セン只宜ク其會法ヲ改正シ以テ弊害ヲ矯ムヘキノミ又今日戸長ニ不適任ノ人物甚タ多キノ一事モ亦深察セサル可ラス蓋シ本案ヲ發スルヤ隨テ布達諭達等ヲ發スル有ル可ク本官等ハ豫メ其可否ヲモ與カリ知ルノ要用ナルヲ信ス何トナレハ是レ本案ノ利害ヲ斷スルニ於テ裨益ヲ得ル有ル可ケレハナリ且縱令本案ハ廢棄ニ付スルモ反覆審議セル後ニ非サレハ則チ然ス可ラス故ニ全部付託調査委員ヲ置クハ本官ノ前會以來殊ニ希望スル所ニシテ今ヤ三十三番ノ建議ヲ聞キ愈ヨ之ヲ置クノ必用ナルヲ信ス因テ喜ンテ之ニ同意ス

## ○三十六番

細川潤次郎

三十三番ノ建議ニ同意ス本官ハ第一讀會ニ參場セス故ニ其議場ノ景況ヲ知ラサレトモ聞ク所ニ據レハ當時既ニ全部付託調査委員ヲ設クル動議ノ出ル有リシト其レ然ラン若シ夫レ本案ヲ把テ廢棄ニ付セントスルカ如キハ特ニ確乎タル理由ノ以テ之ヲ證明スル無カル可ラス故ニ切ニ其建議ノ行ハレンコトヲ望ム

## ○二十八番

笑作麟祥

本官ハ地方ノ情狀ニ疎キモ此三案ハ其關係ノ重大ナルヲ以テ第一讀會ニ大體ノ意見ヲ陳述セリ思フニ本案ノ宜キヲ得サル之ヲ以テ地方ノ施政ヲ改良セントスルハ抑モ何ノ見ル所アリテ然ル耶本官實ニ其意ヲ解スルニ困シム近來徵兵令ヲ改正シ其他直接ニ人民ノ休戚ニ關係スル法律ノ續續出ル有ルニ此時ニ當リ



又本案ヲ發シテ急激ノ變革ヲ爲シ以テ人民ノ感觸ヲ攪動スルトキハ本官其席旗竹槍ノ騷擾ヲ來ス無キヲ保スル能ハス因テ姑ク發布ノ期ヲ緩ウスルヲ望ム今ヤ全部付託調査委員ヲ置カハ本官ノ希望スル如ク姑ク本案ヲ廢スルニ決シテ之ヲ上奏スルニモ便利ナリトス向日布告セル訴訟用印紙規則改正ノ如キ其初メ本院ニ於テ調査委員ヲ置キシニ廢棄ノ理由ヲ報告シ其報告案ハ遂ニ議場ノ採ル所ト爲ラサリシモ當時其廢案ノ理由ヲ知ルニ便利ナルヲ見タリ本案モ此ト同シク委員ヲ置クヲ得タリトス而シテ其委員ハ修正委員ト爲ス可ラス何トナレハ修正委員ハ惟タ原案ヲ修正スルニ止マリ其存廢ヲ議スル權力ナキヲ以テナリ只今三十三番ノ建議ハ調査委員ヲ設ケント云フニ在リテ原案ノ存廢修正共ニ之ヲ議スル自由アル

ヲ以テ本官ハ之ニ同意ス且一言ヲ添ヘン近來下付セル地租法ノ如キハ其關係重大ナルモ大抵從前ノ法律ヲ編纂シタルニ過キス然ルモ仍ホ其委員ヲ選フニハ投票ヲ以テセリ本案ハ彼ニ比スレハ其關係一層重大ニシテ全ク多年ノ慣習ヲ變更セントスル者ナレハ願クハ投票ヲ以テ地方ノ施政ニ曉通セル議官ヲ舉テ委員ト爲シ且其人員ヲ五名ト定メンコトヲ

○四十番<sup>三浦</sup> 本官ハ第一讀會ニ陳述セル如ク第四百二十八號議案

ハ大ニ是ニシテ戸長ノ給料ヲ厚ウシ隨テ今後之ヲ官選ト爲ス如キ皆可ナレトモ他ノ二案ハ甚タ非ナリ本官ノ意見ハ先ツ戸長ヲ官選ト爲ス布告ヲ發シ二三年ノ後チ時機ヲ量リテ更ニ區町村會法ヲ改正スルヲ順叙ナリトス即チ戸長ヲ官選ト爲スコトハ今日之ヲ布告



シテ可ナリ但其布告ハ之ニ修正ヲ加ヘ郡區長ト同シク戸長ノ給料ヲ國庫ヨリ支付スル者ト爲スヲ要ス蓋シ戸長ヲ官選ト爲シテ其給料ヲ地方稅ヨリ支辨セシムル如キハ異日ニ紛議ヲ生ス可キヲ以テナリ且ヤ其給料ヲ國庫ヨリ支付スルモ幾百萬圓ノ費用ヲ要スルニ非ス故ニ然ク修正ヲ加ヘテ之ヲ發行ス可ク他ノ二案ハ時機ヲ俟テ之ヲ發ス可キナリ然リト雖モ今ヤ他ノ二案ヲ措キ獨リ此一案ノミヲ議定スル能ハス三十三番ノ建議ハ三案共ニ調査委員ニ付託セント云フニ在リテ幸ニ之ニ決セハ第一案ニ對スル修正ノ意見ヲ陳述スルヲ得ヘキニ因リ今此ニ贅陳セス

○三十七番 津田眞道 第一讀會以來ノ景況ヲ考フルニ本案ヲ非認スル議官頗ル多キニ似タリ蓋シ是レ本案ハ結局人民ノ負擔ヲ重ウスルヲ

恐ルルニ由ルナラン本官モ亦謂ラク今ヤ國事多端ノ時ニ會スレハ是等ノ事項ハ姑ラク舊慣ニ仍テ變更セサルヲ得タリトスト然リト雖モ町村相合シテ府縣ヲ爲シ府縣相合シテ日本帝國ヲ爲ス即チ本案ハ日本帝國ノ根本タル町村ノ組織ヲ改正スルニ在レハ最モ慎重ナラサル可ラス因テ三十三番ノ建議ノ如ク調査委員ヲ置キテ本案ヲ付託スルハ甚タ穩當ナリトス是ヲ以テ本官モ亦其建議ニ同意シ他日其報告案ノ出ルヲ俟テ本案ノ存廢ヲ決セント欲スルナリ

○議長 三十三番ノ建議ノ決ヲ取ントス因テ先ツ二十八番ノ特別建議ニ關シテ三十三番ノ意見ヲ問ヒ且聊カ陳述スル所アラントス本案ハ發布時機既ニ迫レルヲ以テ內閣ヨリ急速ニ議了センコトヲ牒告シ內務卿モ昨日特ニ來テ之ヲ懇請ス且前キニ本院ノ議定ニ付セ



ル海軍治罪法モ亦急速ニ議了ヲ要スルコトヲ太政大臣ヨリ通牒セ  
 リ其他目今數多ノ未決議案ヲ堆シ本日モ亦他ノ一議案ヲ下付スル  
 有リ然リ而モ各位ノ精神ニ限り有レハ漸ヲ以テ議了スルノ外ナシ  
 今若シ此三案ヲ調査委員ニ付託スルニ決セハ其調査ニハ少ナクモ  
 三四日ヲ要ス可シ然ラハ則チ明日ニモ海軍治罪法ノ第一讀會ヲ開  
 キ以テ内閣要急ノ旨ニ副セサル可ラス然ルニ海軍治罪法ハ條項浩  
 瀚ナルヲ以テ是亦多クハ調査委員若クハ修正委員ニ付託スルニ決  
 スルナル可ク即チ之カ爲メニ若干ノ議官ヲ要セントス故ニ本案ノ  
 調査委員ハ七名ナルヲ望メトモ五名ニ止メテ可ナラン三十三番ハ  
 二十八番ノ意見ニ異議アル乎

○三十三番 關口 隆吉

本官ハ七名ヲ置ンコトヲ望ム又投票ヲ以テ之ヲ選

ムハ鄭重ナレトモ投票ヲ爲スハ煩雜ニ涉ルヲ以テ議長ノ指定スル  
 ヲ欲ス

○議長 各官ノ聞ク如ク本案ノ爲メニ全部付託調査委員ヲ置クハ三  
 十三番ノ發議ニシテ多數ノ同意者アレトモ委員ノ人數ト選定ノ方  
 法ニ至テハ甲乙ノ意見同カラス因テ先ツ委員ヲ置クト否トノ決ヲ  
 取り次ニ其選定ノ方法ト委員ノ人數トヲ二段ニ分チテ之カ決ヲ取  
 ル可シ即チ委員ヲ置クニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ三十三番ノ建議ノ如ク委員ヲ置クニ決ス

○三十番 柴原 和

本官ハ委員ハ五名ト爲シ投票ヲ以テ之ヲ選フヲ可ト  
 ス蓋シ七名ト爲セハ委員中ニ於テ其說多樣ニ岐レ往往ニ混雜ヲ生



スルコト有レハナリ

○三十三番關口  
隆吉

本官ノ意見ハ三十番ニ反シ委員ノ議論ハ數様ニ岐

レテ相共ニ利害ヲ講究スルヲ可トス畢竟調査委員ヲ設クル精神ハ當サニ此點ニ在ルヘシ本院ノ各議官ヲ甲乙丙ノ三部ニ分チ嘗テ部會ヲ開キタルモ亦此故ニ由ルナラン殊ニ本案ハ甚タ重要ノ者ナレハ委員ノ人數ハ務メテ其多キヲ要ス本官ハ九名乃至十一名ヲ置ンコトヲ欲スルモ其前例ナキヲ以テ枉ケテ七名ト云ヘルノミ

○二十七番渡邊  
清

本案ハ種種ノ調査ヲ要スル有ラン然ラハ則チ委員

ノ議論モ亦自ラ頻繁ナル可シ因テ其人數ハ一名タモ多キヲ可トシ七名ヲ置クニ同意ス其選定ノ方法ニ至テハ他ノ議案ニ關シ委員ヲ配當スル心算モ有ル可ケレハ議長ノ指定ニ任シテ可ナラン

○議長 三十三番二十七番ハ七名ノ委員ヲ置クヲ欲シ二十八番ハ五

名ニテ可ナリト云フ三十三番ノ云フ如ク多數ノ委員ヲ置キ調査ノ十分ニ周密ナランコトハ素ヨリ望ム所ナレトモ今ヤ本院ニ下付セル議案頗ル多ク爲メニ委員ヲ置カサルヲ得サル者モ亦之レ有ル可シ故ニ本席ハ二十八番ノ五名ヲ置クト云フヲ宜キヲ得タリト思惟ス然レトモ其多少ヲ定ムルハ之ヲ後ニシ先ツ其選定ノ方法ヲ決セシ乃チ三十三番ノ建議ノ如ク委員ノ選舉ハ本席ノ指定ニ任スニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者九人

○議長 少數ナルヲ以テ投票ヲ用ユルニ決ス因テ其人數ヲ定メシ

十三番ノ建議ノ如ク七名ヲ舉ルニ同意スル者ハ起立セヨ



起立者七人

○議長 少數ナルヲ以テ五名ヲ置クニ決ス乃チ投票ヲ以テ五名ノ調査委員ヲ指選セヨ

○議長 投票得點ハ二十二點三十三番關口十八點二十七番 渡邊十六點二番 洪基和 十三點十一番 楠本正隆 ナリ此五名ハ得票多數ナルヲ以テ全部付託調査委員ト爲ス且數本席ノ演告セル如ク本案ハ特ニ速決ヲ要スルヲ以テ各官中其存廢若クハ修正ニ關シ意見アラハ其要領ヲ記シテ委員ニ報告シ若クハ之ヲ面陳スルモ可ナリ本日ハ散會セヨ

午前第十一時五十分閉場

元老院會議筆記明治十七年三月十二日

禁傍聽

○第四百二十八號議案 地方稅規則第三條第十五項改正ノ儀 第二讀會 二月二十九日ノ續會

○第四百二十九號議案 區町村會法改正ノ儀 同

○第四百三十號議案 區町村費規則制定ノ儀 同

議長 佐野常民

出席議員

二番 渡邊 洪基

三番 東久世通禧

七番 宮本 小一

八番 井田 讓

十一番 楠本 正隆



十二番 横村 正直

十七番 福原 實

二十番 林 友幸

二十七番 渡邊 清

二十八番 箕作 麟祥

三十一番 上杉 茂憲

三十三番 關口 隆吉

三十五番 鍋島 直彬

三十六番 細川潤次郎

三十七番 津田 眞道

四十番 三浦 安

四十一番 西 周

四十二番 長岡 護美

四十五番 神山 郡廉

内閣委員 一番外 参事院議官安場 保和

同 二番外 参事院議官補牧 朴眞

同 三番外 参事院員外議官補白根 專一

午前第十時五分開場

○議長 第四百二十八號以下三議案ノ第二讀會ノ續會ヲ開ク

出席 十四番 田邊 太一

○二番 渡邊 洪基 本官等嚮日此三議案ノ全部付託調査委員ノ選ニ當リ修

正案ヲ作りテ之ヲ議長ニ致セリ因テ議長ハ例ニ沿ヒ原案修正案其



孰レヲ議題ト爲ス歟ヲ決スルナル可シ故ニ本官ハ之ニ先タチ修正ノ理由ヲ陳述セントス抑モ原第一案ノ旨趣タル戸長ヲ官選ト爲シテ小郡長ノ如クナラシメ又町村用掛ナル者ヲ置キ之ヲシテ今日ノ戸長ニ均シキ事務ヲ執ラシメントス此ノ如キハ費額ノ増加セサラシム欲スルモ豈得ヘケンヤ近來米價頗ル低下シ農民爲メニ地租ヲ納ムルニ困マサルハ莫シ此際此法律ヲ發シテ以テ人民ニ一層ノ負擔ヲ重子シムルハ實ニ忍ヒサル所ナリ又原第二案ノ如ク區町村會ノ法則ヲ嚴肅ニセハ實際ニ多費ヲ要シ隨テ町村團結ノ氣習ヲ妨ケントス又原第三案ノ如ク區町村費ノ科目ヲ立定スレハ町村協議ノ慣行ヲ破リ隨テ人民ノ負擔ニ偏重偏輕ヲ來サントス本官等今日ノ實際ヲ觀ルニ各地方戸長ノ事務ハ概シテ舉ラス而シテ町村ノ弊害

ハ益ス甚シ思フニ現時ノ戸長ハ其事務ノ多端ナルニ其身位ハ甚タ賤ク其俸給モ太タ薄ク隨テ人物ヲ得サルニ由ルナラン凡ソ戸籍ノ出入地券ノ公證及ヒ租稅ノ徵收ノ如キ原來行政部分ニ屬ス可キ事務ニシテ仍ホ戸長ノ職務ニ屬スル者少ナカラス加之戸長ハ其町村ノ自治ニ干涉スル者トス故ニ大ニ改革ヲ爲サント欲スルモ今日ニシテ之ヲ爲スニハ郡區町村ノ編成法ヲモ改革セサルヲ得ス此ノ如キハ甚タ難事ナリトス是レ內閣ノ此姑息ノ策ニ出テ以テ已ムヲ得サル者ノミヲ改メントスル所以ナル可ク而シテ本官等ノ第一讀會ニ廢棄ノ意見ヲ有シタルニ拘ラス原案ニ修正ヲ加ヘシモ亦此故ヲ以テナリ要スルニ本官等ノ企望ハ各地方ニ便宜ヲ與ヘ以テ協議會ノ性質ヲ永存セント欲スルニ在ルナリ今此ニ逐條修正ノ理由ヲ陳



セシニ第四百二十八號議案ハ實ニ已ムヲ得サル者トス故ニ全ク原案ヲ取レリ第四百二十九號議案第二條ノ「議員ノ」ノ下ニ選舉ノ二字ヲ加ヘシハ第八第九兩條ヲ削除セルニ由ル抑モ區町村會議員ノ選舉權被選舉權ノ如キ今日各地方ノ定規ヲ觀ルニ大概其區町村内ニ在テ地租ヲ納ムル者ニ限レリ然レトモ地租ヲ納ムル者ノミ町村ノ費用ヲ負擔スト謂フ可ラス但シ今日他ニ其標準ト爲スニ足ル者ナキカ故ニ已ムヲ得ス地租ヲ以テ選舉權被選舉權ノ標準ト爲スモ實ハ甚タ不公平ナリ只幸ニ現行ノ區町村會法ニハ此明文ノ存スル無キニ因テ地方官ノ所見ニ任セ必スシモ地租ヲ納ムル者ノミヲ區町村會議員ト爲ササルヲ得ルノ餘地ヲ留ム是レ宜ク今日ニ襲用スヘキナリ凡ソ瘋癲白痴者ニシテ議員ヲ選舉シ若クハ議員ト爲ル可

ラサル如キハ言フヲ俟タス故ニ此等ハ仍ホ府知事縣令ノ規定スルニ任スヲ可トス是レ選舉ノ文字ヲ插入シ第八第九兩條ヲ削除セルハ之カ爲メナリ第四條ノ「評決」ノ文字ヲ議決ト修正セルハ前條ニ「徵收方法ヲ議定ス」ト言ヘルニ由ル其他評決ヲ議決ト改メタルハ文字ヲ一ニスルカ爲メナリ又其「府知事縣令ニ具狀シテ」ト修正セルハ他條ニ倣フテナリ第六條ハ原案第五條第二項ヲ修正シテ新ニ一條ト爲セルナリ蓋シ原案ノ如ク「前項ノ場合ニ於テ云云」ト言ヘハ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フタル場合ト言ヘル者ノ如キモ原案ノ意ハ然ラス故ニ文字ヲ補足シテ別ニ一條ト爲セルノミ第七條ハ原案ノ意義分明ナラス因テ原意ニ從テ修正ヲ加ヘタリ原案第八第九兩條ヲ削除セル理由ハ既ニ之ヲ陳セリ故ニ復タ贅セス第九



條ノ修正ハ殊ニ重要ナル者ニ係ル夫レ區町村會ハ多數決ノ會議ニ非スヤ然ルニ其議案ノ提出者タル區戸長ヲ以テ議長ト爲スハ失當ナリ府知事縣令ニシテ府縣會議長席ニ就サルモ即チ此故ニ由ル是レ之ヲ修正シテ議長ハ議員中ヨリ公選スル者ト爲シタル所以ナリ第十條ノ修正モ稍ヤ重要ニ屬ス原案ノ旨趣ハ必ス町村會ヲ開設ス可ク若シ開設ス可ラサル狀況アレハ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フ可シト云フニ在リテ毫モ戸長ノ專斷ニ任セサルナリ然レトモ本官等調査委員ハ徹頭徹尾務メテ其事ヲ簡易ニシ各地方ノ便宜ニ委スルヲ可トセルヲ以テ戸長ヨリ府知事縣令ニ具狀シ其指揮ヲ請フ者ト修正セシナリ即チ第二條ニ選舉ノ文字ヲ加ヘ及ヒ區町村費ノ費目ヲ府知事縣令ノ立定スル者ト爲シタル等皆此精神ニ外ナラス

又第四百三十號議案第一條ノ教育費土木費其他五項ノ費目ヲ削除セシハ斯ノ如ク費目ヲ列掲セハ是等ノ事業ハ勢ヒ必ス爲ササルヲ得サル如キノ看ヲ呈シ且其府縣會費目ト抵觸スル等ノ支障アルヲ以テナリ夫レ已ニ戸長役場費ヲ地方稅ヨリ支辨セサル者ト爲ス以上ハ必ス之ヲ町村費ニ仰カサルヲ得ス町村用掛ノ給料旅費及ヒ區町村會ノ會議費用モ亦之ヲ町村費ニ仰カサルヲ得ス而シテ其他ハ皆都テ府知事縣令ニ於テ取舍スルヲ得ン故ニ其已ム可ラサル費目ノミヲ明示シ其他ハ町村ノ便宜ニ應シ府知事縣令ノ所見ニ委スル爲メナリ第二條ノ課目ヲ列掲スルモ亦前條ト同シク支障ナキ能ハス故ニ初メ本官等ハ全ク之ヲ削除シテ一ニ地方ノ便宜ニ任セント欲セリ然レトモ熟考スルニ全ク其據ル所ヲ示ササルモ亦支障ナキ



ニ非ス因テ其標準トシテ二三ノ課目ヲ舉示シ其他ハ地方ノ便宜ニ  
 應シ府知事縣令ノ所見ニ委シタルナリ是等ノ修正ハ此第三案中ニ  
 於テ殊ニ重要ナル者ニ係ル第五條ノ「豫算經費云云」ト修正セシハ  
 費目ヲ削去シタルニ由ル這般修正ヲ加ヘシ大略ハ前陳ノ如シ要ス  
 ルニ是レ原案ノ全國ニ向テ畫一ノ法律ヲ布カントスルヲ改メ以テ  
 地方ノ便宜ニ應シ府知事縣令ノ取舍ニ委スルヲ骨子ト爲セルニ過  
 キス敢テ請フ此修正ノ今日ノ實際ニ已ム可ラサルヲ領シ各位ノ本  
 案ニ同意センコトヲ

○十一番 補本  
正隆

本官モ前會ニ於テ誤テ調査委員ノ選ニ當レリ然ルニ  
 其修正ノ理由ハ只今二番ノ辨明ニ因テ詳ニ之ヲ盡セルニ因リ本官  
 ハ沈黙ヲ守ント欲スルモ別ニ各位ノ清聽ヲ煩ハササルヲ得サル者

アリ抑モ本官ハ第一讀會ニ在テ此三案ニ對シ不同意ヲ表シ廢棄ヲ  
 可トセルヲ以テ付託委員ヲ置クノ建議ヲ贊成セサリシモ遂ニ之ヲ  
 置クニ決シ加之本官モ委員ノ選ニ當リシナリ因テ本官ハ委員會ニ  
 在テ廢案論ヲ唱ヘシモ行ハレス本官等ノ署名ヲ以テ此修正案ヲ各  
 位ニ報告スルニ至レリ思フニ委員ト雖モ議場ニ在テ一己ノ思想ヲ  
 陳スルハ先例ノ在ル有リ又縱使先例ノ在ル無キモ之ヲ爲スハ敢テ  
 支障セサル可シ因テ本官ハ此ニ一己ノ思想ヲ陳ントス抑モ此修正  
 案ハ二番ノ陳述セル如ク惟タ原案ノ文章ヲ簡略ニセルノミ原案ト  
 大逕庭アル無シ抑モ町村公共ノ事件ハ從前ト同シク協議ニ委スル  
 ニ在レハ素ヨリ論ナキモ若シ法律ヲ以テ管制セント欲セハ必ス原  
 案ノ如クセサル可ラス故ニ本官ハ此修正案ヨリモ寧ロ原案ノ明白



ナルヲ擇ミ而シテ原案ノ存廢如何ト云ハ、之ヲ廢スルヲ優レリト  
ス因テ本官ハ全部付託調査委員ノ一人ナルニ拘ラス此修正案ニ起  
立ヲ表スル能ハス尙ホ廢案說ノ出ルヲ俟テ意見ヲ陳述セントス

○議長 例ニ沿ヒ修正案ト下付原案トノ孰レヲ本案ト爲シテ議ス可  
キ乎ノ決ヲ取ン修正案ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ下付原案ニ據リ其逐條議ヲ開カン

書記官 森山茂 朗讀

布告案

明治十三年<sup>四</sup>月第拾六號布告地方稅規則第三條第十五項左ノ通改正

ス

一戸長及戸長役場書記給料旅費

右奉 勅旨布告候事

○三十五番 鍋島直彬 第一讀會ニ於テ各位ノ論說ニ此法案ハ我國固有ノ

風俗慣習ニ悖戾シ又今日ノ民情ニ適合セスト云ヘルハ實ニ的實動

カス可ラス調査委員モ既ニ云ヘリ這般ノ修正ハ務メテ町村協議ノ

慣行ヲ破ラサルヲ期セリト其然ラン然レトモ例ヘハ區町村會法第

二條ニ選舉ノ二字ヲ插入シ議員選舉等ノ規則ヲ府知事縣令ノ定ム

ル所ト爲シタル如キ未タ以テ町村協議ノ慣行ヲ存セシムトハ謂フ

可ラス何トナレハ府知事縣令ノ一定ナル規則ヲ設ケ管内ノ諸町村

ヲシテ皆必ス之ニ據ラシメントスルヤ疑ヒ無ケレハナリ又區町村

費規則ノ費目課目ヲ修正セルモ其區町村費ノ議案ハ區戸長之ヲ發



シ區町村會ノ議決ヲ經ルナレハ是亦區町村ノ固有ノ善俗ヲ存シ協  
議ノ美風ヲ破ラストハ謂フ可ラス故ニ修正ノ理由ハ二番ノ陳述ニ  
因テ明瞭ナルニ拘ラス本官ハ修正案ニ同意スル能ハス蓋シ本案ハ  
戸長ノ事務弛ヒテ舉ラス戸長ニ人物ヲ得ル能ハス人民ハ日ニ輕躁  
浮薄ニ趨レリ故ニ戸長ノ給料ヲ厚ウシ才幹アル者ヲ舉ケテ行政ニ  
便セントスルニ在リ本官ハ各地方ノ現況ニ通セサルモ二三ノ目撃  
スル所ト傳聞スル所トニ據テ之ヲ考フルニ寒村僻地ノ如キハ今仍  
ホ舊天地ノ風俗ヲ存シ或ハ會議ノ何タルヲ解セサル人ニシテ却テ  
町村ニ名望ヲ負ヘル者少ナカラス是等ノ地方ニ至テハ村内ノ事項  
ハ都テ協議ニ成リ患難相救フ情誼ノ最モ深厚ナル其良俗美風實ニ  
愛重ス可シ但シ本案ニ「町村會ヲ開設シ得ヘカラサル狀況アルヲ

認ムルトキ云云」ト言フ有ルモ苟モ之ヲ發布セハ人民ハ益輕躁浮  
薄ニ馳セ敦厚淳朴ノ風俗ハ日ニ泯滅セントス果シテ然ラハ行政ニ  
便スル目的ニ成レル法律ハ却テ之ヲ妨ルニ至ラン願クハ此區町村  
會法ノミニ止ラス凡ソ外觀表飾ニ馳セタル法令ハ務メテ之ヲ舊ニ  
復シ以テ町村ハ恰モ一家ノ如ク互ニ相ヒ救援セシムルニ至ランコ  
トヲ但シ本案ハ國會開設ノ一準備ニシテ府知事縣令ニモ熟議シタ  
ル可ク本官ノ意見ハ或ハ杞憂ニ屬スルヤヲ知ラサレトモ敢テ本案  
ニ左袒スル能ハス因テ之ヲ廢棄ニ付センコトヲ望ム

○四十一番 西

本官ノ所見ヲ以テスレハ本案ヲ今日ニ施行スルハ必  
要ナリト認ム抑モ今日ト雖モ町村ノ費用ハ協議費若クハ其他ノ名  
義ヲ以テ之ヲ徵スルハ各位ノ知悉スル所ノ如ク而シテ本案ハ判然



ニ是等ノ事項ヲ定ムルナレハ行政上ニモ頗ル便益ナリ前會以來本案ニ對シ各位ノ論駁スル所ハ賦課加重ノ一點ニ過キス然ルニ是レ實ニ已ム可ラサルノミ然リ而シテ調査委員ノ修正ハ甚々省略ニ過キ幾ント本案ノ大意ヲ失スル如キヲ免レス本官ノ修正案ニ起立セサリシハ之カ爲メナリ因テ此ニ一言ス

○三十七番 津田真道 此案ニ對シ一言セントス

○議長 三十七番ハ廢案說ヲ賛成セントスル乎只今四十一番ノ發言ハ少シク其時機ヲ誤レリ三十五番ノ廢案說ハ未タ賛成者ヲ得ス故ニ三十七番ノ之ヲ賛成スルハ格別ナレトモ然ラサレハ暫ク時機ヲ俟ツ可キナリ

○三十七番 津田真道 本官ハ三十五番ノ廢棄說ヲ賛成セントスルナリ

○議長 然ラハ語ヲ續キテ可ナリ

○三十七番 津田真道 本官ハ第一讀會ニ於テ仍舊貫如之何何必改作ノ古格言ヲ引キ以テ暫ク本案ノ廢閣ス可キヲ論セリ但シ戸長ノ給料ハ極メテ菲薄ニシテ人才ヲ得ル能ハス隨テ事務ノ舉ラサルハ内閣委員並ニ二番ノ辨明スル如クナル可シ蓋シ歐洲諸國ノ戸長ハ榮譽ノ職務ト爲シ大概給料ヲ受ケス然ルモ未タ爲メニ其事務ノ舉ラサルヲ聞カス我カ維新以前ノ名主莊屋ハ恰モ之レト相類シ其職ニ居ル者ハ同一町村内ノ門地アル人ニ限り且其給料ノ頗ル菲薄ナルモ爲メニ生計ニ困シム有ルヲ聞カス今日ト雖モ亦全ク此慣習ヲ變スル無ラン然レトモ將來戸長ヲ官選ト爲シ又其給料ヲ優厚ニスルハ本官モ之ヲ非トセス但シ是等ハ行政上ノ命令ヲ以テシテ足ル可シ蓋



シ本案ハ國家ノ大事件トハ謂フ可ラサルモ原來區町村ハ一國ノ根本ナルカ故ニ亦之ヲ輕視ス可ラス是ヲ以テ本案ハ姑ラク之ヲ廢棄シ町村ノ事項ハ務メテ舊慣ニ仍ラシムルヲ可トス要スルニ今日ハ斯ノ如キ法律ヲ發ス可キ時機ニ非ス所謂相談會ニシテ足レリト云フニ在リ但シ本官ハ徵兵令議案ニ於ル如ク熱心廢棄ヲ望マサルモ其存廢如何ヲ決スルニハ寧口之ヲ廢スルヲ可トス因テ三十五番ニ左袒ス

○四十番 三浦安 三十五番ニ問フ只今ハ第四百二十八號議案ノミヲ議スル時ナラン然ルニ其廢案說ハ或ハ一舉ニ三案ヲ廢棄セントスル者ニ似タリ如何ン

○議長 第一讀會ニハ三案ヲ連帶シテ議題ニ付セシモ本日ハ第二讀會ナルカ故ニ例ニ依テ毎案逐條ニ議セサル可ラス是ヲ以テ朗讀モ第四百二十八號議案ニ止メタリ三十五番之ヲ領セヨ

○三十五番 鍋島直彬 毎案ニ廢棄ヲ唱フルハ煩難ナリ故ニ本官ハ三案ノ廢棄ヲ併セ論セシモ議事規則ニ背反スル以上ハ謹テ之ヲ謝ス抑モ本官ノ廢棄ヲ欲スル理由ハ只今三十七番ノ論スル所ト異ナラス蓋シ戸長ノ給料ヲ増シ且之ヲ官選ト爲ス等ハ行政上ノ命令ヲ以テシテ足ル可シ本官ハ三案共ニ廢棄ヲ欲スルモ議長ノ說諭ニ從ヒ前說ヲ改メテ先ツ第四百二十八號議案ノ廢棄說ヲ提出シ併セテ四十番ノ質問ニ答フ

○議長 三十五番ノ廢案說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス  
○四十番 三浦安 本官ハ第一讀會ニ略ホ端緒ヲ陳タル如ク此第四百二



十八號議案ヲ是認ス但シ少シク修正ヲ加ヘサル可ラス抑モ今日ノ戸長ハ恰モ人民ノ屬隸ノ如シ故ニ其給料ヲ厚クシテ以テ人材ヲ得ル歟若クハ榮譽ノ職ト爲シ以テ人材ヲ得ル歟到底今日ノ見況ニ放過ス可ラス當初郡區長ハ官選ニシテ其給料ヲ地方税ニ取りシモ多少障礙アルヲ以テ十五年ニ之ヲ改メ國庫ヨリ支辨スル者ト爲セシニ非スヤ戸長ノ給料モ亦宜ク國庫ヨリ支辨スヘキナリ故ニ本官ハ本案ノ戸長ヲ官選ト爲スハ可ナリ其給料ヲ地方税ニ取ルハ不可ナリト信ス因テ現問題ノ消滅スルヲ俟チ之カ修正說ヲ提出セントス

○四十二番 長岡護美 原案ハ修正案ニ比スレハ頗ル可ナリ然レトモ今日尙ホ未タ之ヲ發スル時機ニ會セス故ニ三十五番ヲ賛成ス

○安場保和 第一讀會ニハ廢案說幾ント多數ヲ占タリ然レトモ幸

外

ニ本案ヲ調査委員ニ付託スルニ決シ廢案ヲ唱ヘタル論者モ其委員ノ選ニ當ル有リ二番ノ如キ嘗テ廢案論ヲ主張セシモ今ヤ之ヲ發布スルノ已ム可ラサル所以ヲ領スルニ至レリ因テ廢案說ハ再ヒ議場ニ現出セサル可シト思量セシニ何ソ圖ラン三十五番ノ廢案說ヲ提出シ隨テ之ヲ賛成スル人ヲ見ントハ抑モ本案ヲ發布スルノ必要ナルハ本官等第一讀會ニ於テ之ヲ詳陳シタレトモ本案ハ實ニ全國ノ休戚ニ關係スル者ナレハ聊カ辨セサルヲ得ス廢案論ノ旨趣タル本案ハ從來ノ習俗慣行ヲ破リ人民ヲ輕躁浮薄ニ導キ原來議員ヲ提轉スル目的ニ成レル法案ハ却テ反對ノ結果ヲ生ス可シト云フニ在リ其レ然ラン然レトモ時事其宜キヲ異ニスル以上ハ法律ヲ變更スルモ實ニ已ムヲ得サルノミ若シ論者ノ云ヘル如クンハ事物改進ノ今



日ニ於テ仍ホ神武天皇ノ古制ニ則ル可シト爲スニ類セン前ニハ内務卿ノ訓示ニ據テ戸長ノ選舉ハ務メテ公選ニ出シメタルニ爾來弊害ノ滋生セルヲ以テ今後ハ官選ニ出シメントス然リ而シテ太政大臣ノ公達ヲ以テ此前令ヲ改メンヨリ寧ロ布告ヲ以テ之ヲ明示シ且同時ニ區町村會法ヲ改正シ區町村費規則ヲ制設スルヲ要セリ蓋シ區町村會法ヲ改正スル所以ハ名ヲ協議會ニ籍リテ放恣ナル論說ヲ爲ス者ノ甚タ多キヲ將來ニ防制センカ爲メナリ之ヲ要スルニ本案ハ現行法ト全ク其骨子ヲ異ニスルニ非ス惟タ今日ノ弊害ヲ矯ムルニ必要ナル改正ヲ加フルノミ敢テ請フ目今ノ時情如何ニ着眼シ以テ本案ノ取舍ヲ決センコトヲ

○十一番 楠本  
正隆

三十五番ヲ賛成ス内閣委員ノ説明セル如ク今日ノ現

況ニ放任セハ多少弊害アル可キモ本案ヲ發スレハ亦多少弊害アルヲ免レス本官ハ以爲ク今日ノ弊害ハ宜ク彌縫ノ術ヲ用ヒテ之ヲ矯正スヘク遽ニ法律ヲ變更シテ改革ヲ行フハ得策ニ非スト只今問題ニ在ル第四百二十八號議案ハ戸長及ヒ書記ノ給料ヲ地方稅ヨリ支辨セシムル者トス蓋シ其給料ノ協議費ヨリ支辨シ若クハ地方稅ヨリ支辨スルハ共ニ已ム可ラサル者ナレハ本官モ本案ニ對シ敢テ異論ヲ容レス然レトモ本案ハ他ノ二案ト牽連セルヲ以テ他ノ二案ヲ廢棄スル以上ハ勢ヒ共ニ廢棄セサル可ラス或ル議官ハ他ノ二案ハ廢棄ス可ク本案ハ存ス可シト云フモ本案ハ戸長ヲ官選ト爲シ而シテ之ヲシテ他ノ二案ヲ執行セシメントス然ラハ則チ本案ヲ可決スルモ他ノ二案ヲ廢棄セハ幾ント其效用ヲ見ル無ラン是レ本官ノ三



十五番ニ左袒スル所以ナリ

○二十八番案作麟祥

本官ハ第一讀會ニ於テ三案共ニ姑ク其發布ノ時機ヲ俟ツ可キヲ論セリ爾後調査委員ヲ選定スル建議ニ同意シ而シテ委員ノ提出セル修正案ハ費目課目等ノ條項ハ多少原案ト異ナル有ルモ其大體ハ異ナル無シ故ニ均シク本官ノ意ニ適セス只今三十五番ハ此第四百二十八號議案ト他ノ二案トヲ併セテ俱ニ之ヲ廢棄ニ付セント云ヘリ其論旨タル本官ト稍ヤ異ナルモ其結局ヲ同ウスルヲ以テ之ヲ贊成ス或ル議官ハ本案ノミ之ヲ存シテ可ナリト云フモ本案ヲ是認セハ他案モ亦之ヲ是認シ本案ヲ非視セハ他案モ亦之ヲ非視セサル可ラス何トナレハ今ヤ戸長ノ事務弛ヒテ舉ラス且其人物ヲ得サルカ故ニ此案ヲ發シ以テ他案ヲ執行セシメントスルヲ以

テナリ畢竟第一讀會ニハ三案其相牽連スル爲メニ連帶セシメタルヲ以テ本官等廢棄ノ意見ヲ陳スルニ便ナリシナリ抑モ數町村ヲ聯合スル如キ今日見ニ之ヲ爲ス有レトモ是レ府知事縣令郡區長ノ行政處分ヲ以テ之ヲ爲スナレハ人民モ敢テ異議ヲ容レス然ルニ本案ノ如ク法律ヲ以テ町村ノ聯合ヲ命シ而シテ戸長ノ給料ヲ厚ウセシムルトキハ必ス人民ニ惡感觸ヲ生セシメントス夫レ今日ハ地券ノ公證ナリ租稅ノ徵收ナリ凡ソ法令執行ノ事務ハ悉ク戸長ノ一身ニ輻湊ス是豈人力ノ能ク耐ル所ナランヤ然ルニ其人力ノ能シ難キ勤務ヲ以テ戸長ニ責ルハ甚タ誤レリ宜ク歐米諸國ノ例ニ倣ヒ租稅徵收地券公證等ハ特設ノ職員ニ委任シ戸長ニハ當然ノ職務ノミヲ執行セシムヘシ故ニ本案ハ一タヒ之ヲ內閣ニ奉還シ以テ其再考ヲ求



メテ可ナラン

○議長 討議未タ盡キサレトモ時已ニ午ヲ過ルヲ以テ午餐ノ爲メニ閉場セン

午後零時十分閉場

午後第一時五分開場

○議長 東久世通禧 午前ノ續會ヲ開ク

○二十七番 渡邊清 頻頻ニ廢案說ノ出ル有ルモ其主點ハ三箇ニ過キス曰ク町村ハ從來自治ニ任セリ今後モ舊慣ニ仍テ變更ス可ラス曰ク戸長ノ擔任スル事務ノ中ニ於テ租稅徵收地券公證等ノ事務ハ特設ノ職員ニ管理セシム可シ曰ク戸長ヲ官選ト爲スハ不可ナリ町村ハ

姑ラク舊ニ仍テ自治ニ任ス可シト然ルニ此第三說ノ如キハ其旨趣分明ナラス所謂姑クトハ抑モ幾許ノ歲月間ヲ待ツ可シト云フ乎夫レ町村自治ノ說ハ宜ク五六年前ニ之ヲ發スヘク今日ハ既ニ町村議會ノ設ケ有リ而シテ其會法ノ完備ナラサル爲メニ幾ント町村ノ治安ヲ保ツ能ハサラントス二十八番ノ說ノ如キ府縣制度ノ改正ヲ論スルナラハ即チ可ナリ本案ニ對シテハ其當ヲ得サルナリ又或ハ戸長ヲ官選ニスル一事ヲ舉テ廢案ノ理由ト爲セル有リ是ノ如キハ議案外ニ渉ル駁論ニシテ殊ニ失當タルヲ免レス第一讀會ニモ陳述セル如ク初ヨリ町村會ヲ設ケサレハ已ム可キモ既ニ之ヲ設ケタル以上ハ必ス其會法ヲ立サル可ラス且此會法ヲ立タル以上ハ又隨テ其完備ヲ求メサル可ラス今ヤ町村會法ノ完備ナラサルハ反對論者ト



雖モ亦明カニ之ヲ領スルナラン然ルニ一町村ニ於テ二三百圓ノ公  
共費用ニ關シ其會ヲ開クニ當リ百圓内外ノ會費ヲ要スルコト往往  
ニ之レ有リ是レ其會議ノ數十日ニ亘ルカ爲メニシテ即チ會法ノ完  
備ナラサルニ職由ス又凡ソ協議費ノ如キモ督促數次ニ及ハサレハ  
之ヲ納メス是カ爲メニ許多ノ費用ヲ要シ到底得失相償フ能ハス本  
案ノ頒布ヲ要スルハ蓋シ此故ニ由ルナリ之ヲ約スレハ本案ノ旨趣  
タル費用ノ必要ナルハ之ヲ徵シ其必要ナラサルハ之ヲ省キ又其會  
議ニ決シタル金額ハ必ス之ヲ徵セントスル三點ニ外ナラス即チ本  
案ハ現行法ノ瑕疵ヲ彌縫スル者ト謂フ可シ故ニ本官等ハ本案ヲ採  
リテ之ニ修正ヲ加ヘタルナリ其修正案ハ不幸ニシテ各位ノ取ル所  
ト爲ラサリシモ本案ノ切要ナルハ前陳ノ如シ冀クハ各位實際ノ利

害如何ニ着眼シテ以テ之カ取捨ヲ決センコトヲ

○番三番白根  
外三番專一

本員ハ各位ノ論說ヲ默聽スルニ廢案論ノ主唱者ナル  
三十五番ハ其初メ惟タ區町村會法ノミヲ批評シ而ル後チ本官ノ意  
見ハ恰モ三十七番ノ說ク所ノ如シト云フニ止メリ然ルニ三十七番  
ノ論說ハ戶長ヲ官選ト爲シ行政事務ヲ擴張スルハ可ナレトモ今日  
本案ヲ發スルハ可ナラス故ニ宜ク廢棄ニ付スヘシ但シ徵兵令議案  
ニ對スル如ク熱心廢棄ヲ望マスト云ヘリ之ヲ三十五番ノ町村ハ一  
層自由ニ任ス可シト云ヘルニ比スレハ矛盾ヲ致スニ似タリ又三十  
五番ハ第四百二十八號議案ニ對シテハ一モ其非ナル所以ヲ說カス  
是レ徒ラニ廢棄ヲ唱フルニ類セスヤ或ル議官ハ本案ハ法律ヲ以テ  
町村ノ聯合ヲ命スル者ナリト云ヘリ然レトモ郡區町村編成法第六



條ノ在ル有リテ一町村乃至數町村ニ一戸長ヲ置クハ今日ト雖モ之ヲ爲ス自由ナリ何ソ必シモ本案ヲ發スルト否ラサルトニ關セン故ヲ以テ本案ハ強テ町村ノ聯合ヲ命スル者トハ謂フ可ラス但シ町村ノ聯合スル將來多少増ス可キノミ何トナレハ見今戸長ノ給料菲薄ナルカ故ニ人物ヲ得ス因テ其給料ヲ豐厚ニシ以テ其事務ノ舉ランコトヲ期スレハナリ然リト雖モ胡越モ必ス聯合セシムルニ非ス惟タ利害ヲ同ウスル町村ニ對シ聯合ヲ命スルノミ又或ル論者ハ今日戸長ノ負擔スル事務ハ繁多ニ失ス租稅徵收地券公證等ノ事務ハ別ニ當該官吏ヲ置テ之ヲ擔任セシメ以テ戸長ノ事務ヲ減ス可シト云ヘリ此說或ハ可ナラン然レトモ是ノ如キハ今日要急ノ場合ニ應スル能ハス乃チ先ツ本案ヲ施行シ而シテ其分任法ノ如キハ他日徐ク

之ヲ施行スルモ未タ晚シトセス此說モ亦以テ本案廢棄ノ理由ト爲スニ足ラス之ヲ要スルニ廢案說ニ決セハ獨リ內閣委員タル本員等ノ復命ニ困スルノミナラス主務官衙モ爲メニ其措置ニ苦シマントス又廢案論者タル十一番ノ說ハ或ハ要旨ヲ得サルニ似タレトモ其旨意タル一言以テ之ヲ蔽ヘハ曰ク本案ハ劇變ニ失ス故ニ廢棄ス可シト然ルニ政府ノ本旨ハ町村ノ聯合ヲ促スノミ決シテ劇變ト爲ス可ラス論者ハ町村ノ聯合ヲ好マサルヨリシテ區町村會法ノ改正ヲモ非視スルニ似タリ是ノ如キハ殊ニ遺憾ト謂フ可シ前日モ陳ヘタル如ク現行ノ區町村會法ハ頗ル不備ノ者ニシテ其第二條ノ如キハ殊ニ甚シ例ヘハ區町村會ノ數十日ニ涉リ爲メニ許多ノ費用ヲ要スル有ルニ當リ府知事縣令其會則中ニ會議日數ノ制限ヲ設ケントス



ルモ會員ハ會法第二條ニ區町村會ノ規則ハ其區町村ノ便宜ニ從ヒト言ヘルヲ援キテ之ニ應セサル如キ是レナリ夫レ區町村會法ハ十三年四月ノ制定ニ係ル然ルニ十五年臘月マテニ會法ニ關シ各府縣ヨリ内務省ニ稟議セシ條件ハ三百許ノ多キニ達セリ以テ其會法ノ完備ナラサルヲ證ス可シ又區町村會ノ議案モ戶長ヨリ之ヲ發スルニ非サルハ支障ヲ見ル假令議員ヨリ之ヲ發スル者ト爲スモ今日ノ如ク數其期ニ後ルル如クンハ爲メニ支障ヲ致スヲ免レス又議員ノ選舉ノ如キモ今日往往ニ支障ヲ見ル府知事縣令其會則ヲ改正セントスルモ是亦會員ハ第二條ヲ援キテ之ニ應セス是ヲ以テ府知事縣令其會法ノ改正ヲ内務省ニ稟請シテ止マス是レ這般此改正ヲ要スル所以ニシテ敢テ徒ヲニ多事ヲ求ムルニ非ス事實已ムヲ得サ

ルノミ夫レ町村ノ事務ハ公共ノ事務ナリ故ニ期ニ後レテ議案ヲ發シ若クハ議事ノ遷延スル如キハ甚々其公共ノ事務ニ支障ス論者町村ハ一家團欒ノ情味ヲ爲ス本案ハ舊來ノ慣習ヲ破ル者ナリト云フモ十三年ニ區町村會ヲ興シ多數可決ノ法ニ依テ區町村ノ公共事務ヲ議セシムル以上ハ一家團欒ノ情味モ舊來ノ慣習モ已ニ此時ヨリ消失セリト謂フ可シ且ヤ現行區町村會法ニハ本案第十一條ノ如キ明文ヲ載セス故ニ町村會ハ全国各地悉ク之ヲ開カサル可ラサル者ノ如シ然ラハ則チ本案ハ此點ニ於テモ便利ナリトス又區町村費規則ハ實ニ創定ニ係ル然ルニ今日ト雖モ其費用ハ實際之ヲ徵收ス惟タ之ヲ法律ノ明文ニ掲ケサリシノミ區町村會法アリテ區町村費規則ナキハ猶ホ車ノ隻輪ヲ闕クカコトシ故ニ之ヲ作ルモ決シテ實際



ニ害セス若シ夫レ本家中或ハ内閣ノ意思ノ詳明ナラサル有ラハ請  
フ之ヲ本員等ニ質セ只其意思ノ徹底セサル爲メニ廢案ニ付セラ  
ル如キハ本員等此ニ出場セル本旨ニ負カン其問答ノ頻繁ナルハ本  
員等ノ敢テ辭セサル所ナリ又若シ他ニ良考案ノ在ル有ラハ幸ニ之  
ヲ示サンコトヲ望ム

○八番井田讓

本官ハ三十五番ニ同意ス但シ其理由ハ少シク異ナレリ  
只今番外三番ハ喋喋トシテ廢案說ヲ駁論シ且曰ク若シ他ニ良考案  
ノ在ル有ラハ幸ニ之ヲ示セヨト然レトモ本官等ノ任ハ本案ノ可否  
ヲ議スルニ在リ故ニ別ニ意見書ヲ提出スルノ外ハ今此ニ考案ヲ蓄  
フルモ之ヲ陳ルヲ得ス是ヲ以テ本官ハ惟タ本案ニ對シ意見ヲ陳フ  
可キノミ本案ニ據レハ數町村ニ戸長一員ヲ置クヲ本則ト爲シ一町

村ニ一員ヲ置クヲ變則ト爲ス然ルニ郡區町村編成法ヲ觀レハ第六  
條ニ每町村ニ戸長各一員ヲ置ク又數町村ニ一員ヲ置クヲ得ト  
言ヒ其旨趣恰モ本案ト相ヒ表裏セリ彼ヲ改正セン乎議案外ノ所爲  
ニ涉ル然ラハ則チ本案ヲ廢棄スルノ外ニ其方ナカル可シ且ヤ戸長  
ノ給料ヲ増加セハ爲メニ地方ノ經濟ニ困難ヲ與フ可シ十四年ノ統  
計年鑑ヲ觀ルニ戸長給料額全國ヲ合セテ壹百六拾萬圓許平均一人  
ノ月給金六圓弱村數ハ五萬八千壹百餘町數ハ壹萬壹千八百餘ト爲  
ス但シ此計算ニハ東京ノ町數モ算入セルナラン然ルニ東京ニハ戸  
長ヲ置カス故ニ今假ニ町數ヲ一萬ト爲シ之ニ五萬八千一百餘ノ村  
數ヲ合セ每五町村ニ一戸長ヲ置ク者ト定ムルモ尙ホ一萬五六千許  
ノ戸長ヲ要シ而シテ之ニ貳拾圓ノ給料ヲ與フレハ幾ント一月額貳



拾萬圓餘ヲ要ス即チ之ヲ從來ノ給料額ニ比スレハ大ニ其増加スルヲ見ル且夫レ町村ヲ自治ニ任放スルハ弊害アリト云フモ各町村多クハ其慣習ヲ異ニス然ルニ官選ヲ以テ毎五町村ニ一戸長ヲ置ク如クンハ人民ノ感觸ハ果シテ如何ン第一讀會ニモ陳フル如ク之カ戸長タルハ頗ル難ク是レヨリ人人本町村ノ戸長ト爲ルヲ嫌ヒ爲メニ之ヲ他町村ヨリ舉ケサルヲ得ス遂ニ其町村ノ慣習ヲ打破スルニ至ル可シ故ニ本官ハ以爲ク本案ハ一ニハ地方ノ經濟ヲ誤マリ一ニハ町村ノ慣習ヲ破ル者ナリト現行區町村會法第二條第三條ノ完備ナラサルハ宜ク修正ヲ加フヘキノミ本案ハ現行法ヲ改正スルニ非スシテ寧ロ法律ヲ創定スル者ト謂フ可シ況ヤ今後協議費ノ怠納者モ地方稅ノ怠納者ト同シク之ヲ公賣處分ニ付スル如キハ今日地方ノ

實況ト相ヒ背馳スルノ甚キヲヤ是等ハ改革ノ殊ニ急激ニ失スル者ニシテ恐クハ人民ノ之ニ耐ル能ハサラシ乃チ望ム姑ラク現行法ノ完備ナラサル者ヲ補正シ以テ此ノ如キ法律ヲ今日ニ布ク無ランコトヲ

○二番 渡邊 洪基

修正案ノ議場ニ擯斥サレシハ頗ル遺憾ナレトモ一方ヨリ之ヲ觀レハ原案ト雖モ亦敢テ不可ナルニ非ス過刻モ陳ル如ク原來本案ハ只是レ一時ノ急ニ應スル者ノミ但シ之ヲ措キテ他ニ方途ヲ得サルニ非ス本官ノ考フル所ヲ以テスレハ戸長及ヒ書記ノ給料旅費ノ如キ皆之ヲ町村費ニ加ヘ租稅ノ徵收ナリ地券ノ公證ナリ郡區役所ニ於テ今日ニ兼任スル事件ノ將來ニ專任スルヲ得ヘキ者ハ悉ク之ヲ郡區役所ニ管理セシメハ則チ可ナラント到底今日戸長ノ



事務ハ繁雜ニ過ク故ニ必ス分任ノ方圓ヲ取ラサル可ラス町村用掛  
ヲ置クハ町村ノ理事ニ充ル爲メニシテ即チ分任ノ一方圖ト謂フ可  
シ將來町村會ハ小區郡會ノ如キ看ヲ呈ス可キモ町村ノ協議會ハ滅  
絶スルニ非ス何トナレハ利害ヲ同ウスル町村ハ聯合シテ會議ヲ開  
クモ利害ヲ同ウセサル町村ハ各箇ニ會議ヲ開ク可ケレハナリ故ニ  
本案ヲ視テ以テ舊來ノ慣習ヲ破ル者トハ做ス可ラス十四年ノ統計  
年鑑ヲ觀ルニ郡區長給料平均四拾壹圓強郡區書記給料平均拾壹圓  
備吏給料平均五圓七拾錢ニシテ總計八拾七萬圓許其人員ハ一萬一  
千餘人ナリ今日郡區長ノ事務ト戸長ノ事務トハ大逕庭アルニ非ス  
郡區長ハ戸長ノ大ナル者ノミ而シテ郡區役所ノ事務ハ戸長役場ノ  
事務ノ整頓セサルニ因テ徒ラニ繁雜ヲ受ル有リ若シ本案ヲ發シ隨

テ戸長役場ノ事務ヲ整頓セハ郡區役所ノ事務ハ著シク減少ヲ來シ  
幾ント無用ノ者ト爲ルモ知ル可ラス是レ本官ノ原案ヲ是認スル理  
由ナリ蓋シ是ノ如キ姑息ノ法律ヲ發スルハ本官ノ甚タ好マサル所  
ナルモ今日苟モ區町村會ノ設ケ有ル以上ハ必ス之ヲ檢束スル法規  
ヲ立サル可ラス思フニ本案ニ換ル考案ハ他ニ之レ無キニ非サルモ  
目下要急ノ場合ニ適セス請フ各位ノ此意ヲ領シテ本案ノ取捨ヲ決  
センコトヲ

○十一番 楠本  
正隆

原來此第四百二十八號議案ハ協議費ヨリ戸長ノ給料  
ヲ支辨スル者ヲ改メ今後ハ地方稅ヨリ之ヲ支辨スル者ト爲シ其他  
ハ一切改更セスト云フニ止マレハ則チ可ナレトモ内閣ノ旨趣ハ他  
ノ二案ヲ施行スル爲メニ此案ヲ發セントスルニ在リ故ニ獨リ此案



ノミヲ賛成スル能ハス又他ノ二案ハ時機ヲ俟テ其非ナルコトヲ陳  
セント欲セシモ今此ニ併論セン抑モ今日戸長ノ事務ハ自宅ニ於テ  
之ヲ執ル有レトモ本案ノ如ク數町村ヲ併合セハ新ニ役場ヲ設ケサ  
ルヲ得ス從テ幾分ノ費用ヲ要セン或ル議官ハ本案ヲ發スルモ劇變  
ナリト謂フ可ラスト論スレトモ是レ特ニ今日ノ實際ニ悖ルノミナ  
ラス費目課目ヲ明掲セル如キ之ヲ劇變ト謂ハスシテ何ソ又今日町  
村ニハ協議會ナル者アリ以テ德義上ニ於テ富者ハ多ク其町村ノ費  
用ヲ負擔シ而シテ貧者ハ概シテ此負擔ヲ免ルルコトヲ得ルモ今此  
法律ヲ發スルヤ是等ノ善俗美風ハ遂ニ煙散霧消ニ歸ス可シ又第二  
案ノ如キ嚴肅ナル規則ニ遵フテ町村會ヲ開カハ老實者ハ益々其會  
場ニ參スルヲ厭ヒ從テ輕薄無賴ノ書生輩ノミ會場ニ跋扈スルニ至

ラシ又凡ソ戸長役場ノ事務ノ繁雜ナルハ專ラ收稅ト徵兵トニ關係  
ス故ニ此等ノ事務ハ郡役所ニ分任セシメテ可ナラン抑モ東京ニ區  
役所ヲ置キ以テ戸長役場ノ事務ヲ兼任セシムルハ本官ノ考案ニ成  
レリ當時區役所ヲ置ケハ戸長役場ヲ置クヲ要セスト云ヒ或ハ然ラ  
スト云ヒ議論紛然タリシモ遂ニ戸長役場ヲ置カサルニ決シ以テ今  
日ニ沿行シテ仍ホ之ヲ改メサルヲ觀レハ官民共ニ此措施ヲ是認セ  
ルニ由ルナラン夫レ數町村ヲ併セハ戸長役場ノ新建ヲ要シ戸長ノ  
給料ヲ厚ウセハ地方ノ費額モ亦大ニ増加セントス故ニ本案ハ戸長  
ノ人員ヲ減シテ町村用掛ヲ置キ以テ之ヲシテ戸長ノ事務ヲ分任セ  
シメントスルナラン然レトモ是亦幾許ノ費用ヲ要セサルヲ得ス又  
凡ソ費目ト云ヒ課目ト云フモ到底稅目タルヲ免レス且其地價割ノ



名稱ノ如キハ今日ノ法文中ニ載ス可キ者ニ非ス聞ク奥羽地方ニハ  
 協議費ハ獨リ地主ニ課スルノミナラス畑作人ニモ亦之ヲ課シ或ハ  
 然セサル有リト是皆所謂協議ニ成ル者ナリ然ルヲ若シ此法案ヲ發  
 セハ此等ノ善俗美風ハ頓ニ地ヲ掃ハントス尙ホ將來ヲ推考スルモ  
 國會ノ開設ハ既ニ遠カラス憲法ノ制定モ亦近キニ在ル可シ故ニ其  
 大法ノ成ルヲ俟チ徐ク是等ノ事項ヲ議スルヲ可トス一時ノ弊害ヲ  
 見テ乍チ法制ヲ變シ以テ町村自治ノ慣行ヲ破ル可キニ非ス蓋シ此  
 三案ハ行政上ニ於ル必要ノ計畫ニ出タル可キモ本官等苟モ之ヲ非  
 認スル以上ハ默從スル能ハス是レ斷シテ廢棄說ニ左袒スル所以ナ  
 リ切ニ望ム現行法ノ弊處ヲ彌縫シテ之ニ沿行シ而シテ本案ハ姑ク  
 其發布ヲ後日ニ延ンコトヲ

○三十三番 關口 隆吉

本官ハ本案ヲ是認ス從來戶長役場ノ取扱諸費ニ關  
 シテハ種種ノ紛雜ナル事情アリ蓋シ戶長役場ノ事務タル一ハ町村  
 ノ理事ニ屬シ一ハ官府ノ職務ニ屬スルヲ以テ其費用ノ如キモ地方  
 稅ヨリ支辨スルト協議費ヨリ支辨スルトノ區別アルニ由ル是レ四  
 五年以來ノ一難問題ニシテ見ニ或ル地方官ハ爲メニ意見書ヲ內務  
 卿ニ呈出セリト云フ即チ本案ヲ發シテ費用ノ所出ヲ區別シ以テ將  
 來ノ紛議ヲ防クニ如カス本官ハ昨年或ル地方ヲ巡回セシニ縣廳ノ  
 事務ナリ郡區役所ノ事務ナリ之ヲ五六年前ニ比スレハ皆其頗ル整  
 頓セルヲ見ルモ戶長役場ノ事務ノミ獨リ然ラス其事務常ニ幅湊シ  
 テ停滯舉ヲサルヲ覺フ然ルニ全ク其制度ヲ改正スルハ得テ今日ニ  
 望ム可ラス然ラハ則チ稍ヤ姑息ニ似タルモ本案ヲ措キテ他ニ改良



ヲ圖ルノ途ナカラシ但シ本案ト雖モ素ヨリ瑕瑾ナキニ非ス故ニ本官等修正案ヲ提出セシモ其既ニ否決ニ歸セル以上ハ原案ニ仍テ之ヲ議シ而シテ其瑕瑾ヲ修正セサル可ラス蓋シ其二三ノ瑕瑾ヲ修正セハ今日ノ實際ト大異ナカル可シ聞ク或ル地方ノ如キハ九百餘ノ町村ニ對シテ八百餘ノ戸長役場ヲ存セシヲ二百二十餘ニ減シ町村會モ亦之ニ準シテ開設セリト只其費用ハ大ニ減シタリト云ヒ又然ラスト云ヘルモ要スルニ幾分カ之ヲ減セシハ明カナリ是ヲ以テ之ヲ考フルニ町村合併ノ一事タル之ヲ全國ニ及ホスモ費用ノ點ニ於テハ大差ヲ見サル可シ又其町村ノ費用ニ關シテハ先ツ相談會ヲ開テ之ヲ議シ而シテ町村會ハ幾ント前議ヲ確ムル如キ者多キニ居レリ町村ノ會議ニシテ數十日ヲ費セシ如キハ全ク之レ無キニ非ス然

レトモ是レ甚タ稀レナリ但シ會則ハ各會自ラ之ヲ作ルヲ以テ種種ノ支障ヲ見ル故ニ町村會法ヲ改正スルハ今日ニ必要ナレトモ法律ヲ以テ議員ノ選舉權被選舉權ニマテ干涉スルハ不可ナリ因テ修正案ニハ之ヲ除キシナリ要スルニ本案ハ惟タ今日ニ已ム可ラサル者ニ限り提轄ノ方法ヲ設クルニ在リ決シテ劇變ナリト謂フ可ラス因テ本官ハ三案共ニ是認スルモ今先ツ現問題ニ同意セサルコトヲ一辨シ併セテ其他ニ論及スルコト爾リ

○議長 討議未タ盡キサレトモ本日ハ議ヲ此ニ止メ明日例刻ヨリ開會ス可シ散會セヨ

午後第三時十五分開場



左案ハ本日ノ會議ニ否決セシモ重要ノ關係アルヲ以テ附記ス

布告案

明治十三年<sup>四</sup>月第拾六號布告地方稅規則第三條第十五項左ノ通改正ス

一戸長及戸長役場書記給料旅費

右奉 勅旨布告候事

布告案

明治十三年<sup>四</sup>月第拾八號布告區町村會法左ノ通改正ス

區町村會法

第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件及其經費ノ支

出徵收方法ヲ議定ス

第二條 區町村會ノ會期、議員ノ<sup>選舉</sup>員數、任期、改選及其他ノ規則ハ府

知事縣令之ヲ定ム

第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戸長之ヲ招

集シ其議案ヲ發ス

第四條 區會ノ<sup>議</sup>評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ<sup>議</sup>評決ハ戸長之ヲ施

行ス若シ其<sup>具狀シテ</sup>評決ヲ不適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メテ府知

事縣令<sup>ニ</sup>指揮ヲ請フヘシ

第五條 區長ニ於テ區會、郡區長戸長ニ於テ町村會ノ議事若シ法

ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止



シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第六條 區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリ

前項ノ場合ニ於テ府知事縣令ハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ

又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得

第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開

會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戸長ハ府知事縣令ノ認可ヲ得

テ第一條ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

第八條 區町村ニ於テ議員ヲ選舉セス又ハ議員招集ニ應セスシテ

會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於

テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第九條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ

其區町村ニ居住シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府

縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル、者及陸海軍々人

現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ

其區町村ニ住居シ其區町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府

縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ議員

タルコトヲ得ス

第十一條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戸長ヲ以テ之ニ充ツ區

長戸長若シ事故アルトキハ區長戸長ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指

定スルコトヲ得

第十二條 府知事縣令其管轄內ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラサ



ル狀況アルヲ認ムルトキハ府知事縣令内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十二條 府知事縣令ハ數區町村ニ關涉スル事件アルトキハ其區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得

第十三條 府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ニシテノ關係ニ依リ區町村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ

ハ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得

第十四條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長戸長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ

之ヲ管理セシム但戸長ヲシテ其評決議ヲ施行セシムルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

シ

一 布告案

區町村費規則左ノ通制定ス

一 區町村費規則

第一條 區町村費ヲ以テ支辨スヘキ目左ノ如シ

一 戸長役場費

一 町村用掛給料旅費

一 教育費

一 土木費

一 區町村會議費其他

一 衛生費



一 救助費

一 災害豫防及警備費

一 豫備費

右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ區町村會ノ評決ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ其認可ヲ受クヘシ

第二條 區町村費ヲ徵收スヘキ課目左ノ如シ但現品又ハ未役ヲ以

テ徵收スルコトヲ得

一 地價割又ハ段別割

一 營業割

一 戸別割 其他

右ノ外地方適當ノ課目アルトキハ區町村會ノ評決ヲ經府知事縣

之ヲ定ム  
令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三條 區町村ノ經費ハ其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一週年度トナ

シ其豫算ヲ定メ區長ハ區會戸長ハ町村會ノ評決ヲ取り府知事縣

令ニ具申スヘシ

第四條 區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモ

ノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ區長ハ區會戸

長ハ町村會ノ評決ヲ取り府知事縣令ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期

間之ヲ施行スルコトヲ得

第五條 豫備費ヲ以テ給足セサル臨時ノ費用アルトキハ區長ハ區

會戸長ハ町村會ノ評決ヲ取り別ニ賦課スルコトヲ得其急施ヲ要



スルトキハ便宜施行シテ後區町村會ニ報告スルコトヲ得  
 第六條 前年ノ經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ不  
 足ヲ生スルモノアルトキハ區長ハ區會戸長ハ町村會ノ評決ヲ取  
 リ其補充費ヲ徵收スルコトヲ得  
 第七條 區長戸長ハ一週年度間ノ出納ヲ計査シ決算帳ヲ製シ翌年  
 之ヲ區町村會ニ報告シ府知事縣令ニ具申スヘシ  
 第八條 議會ヲ開設セサル町村ハ戸長ニ於テ其經費ノ支出徵收方  
 法ヲ定メ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行ス  
 第九條 區町村費ノ怠納者ハ明治十年<sup>十一月</sup>第七拾九號布告ニ據リ  
 處分スヘシ但財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ官沒ノ手續ヲナ  
 サス區長又ハ戸長ニ於テ之ヲ管掌シ其處分ハ區町村會ノ評決ニ

付スヘシ

右奉 勅旨布告候事



第六條 前條ノ經費計算ノ場合ニ於テ已メテ行ハレタル事故アリテ  
 是ノ生スルモノアルトキハ區長ハ區會員長ハ町會ノ評決ヲ以  
 リ其補充費ヲ徵收スルコトヲ得  
 第七條 區長ハ一連年度間ノ出納ヲ討査シ其積欠ノ額ヲ整理  
 之ヲ區町會ニ報告シ指知事縣令ニ具申スルハ  
 第八條 區會ヲ開設セサル町村ハ戶長ニ於テ其經費ノ支出徵收方  
 法ヲ定メ指知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得  
 第九條 區町會費ノ意納者ハ明治十年十一月第七拾九號布告ニ據リ  
 處分スヘシ但前條公費ノ購買受領人ナキトキハ官設ノ手續ヲテ  
 沐奉 該旨亦吉到事  
 村入ヘシ

元老院會議筆記 明治十七年三月十三日

禁傍聽

- 第四百二十八號議案 地方稅規則第三條第二讀會 三月十二日ノ續會
- 第四百二十九號議案 區町村會法 改正ノ儀 同
- 第四百三十號議案 區町村費規則制定ノ儀 同

議長 佐野 常民

出席議員

- 二番 渡邊 洪基
- 三番 東久世通禧
- 五番 津田 出
- 七番 宮本 小一
- 八番 井田 讓